

科目名	体育	年次	2	単位数	2
授業期間	2024 年度 後期	形態	講義		
教員名	前川 憲正				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>体育の教育的意義と歴史的な変遷、体力及び運動能力の考え方、よい体育授業の条件と体育の楽しさ等について理解するとともに、近年の子どもたちの体力・運動能力の傾向を知り、主として小学校体育の運動領域を中心にして、その内容と基本的な授業展開、場づくりの工夫と指導の手立て、指導と一体化した評価の在り方等について実技を中心にした実践を通して創造的に追究していきたいと考える。</p>					
授業概要					
<p>授業形態は、ペアやグループによる小集団学習を中心にしたと考えている。その中で、学生自らが実践を通して主体的で対話的な学びを経験することで、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」をバランスよく育成する体育学習がめざすものについて体得できるようにしたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にする ・模擬授業演習には、運動に適した服装、体育館シューズ等の準備をして参加する ・グループワークに進んで取り組み、対話的で協働的な学びを大切にする 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
実践演習・振り返り			30		
最終試験			40		
教科書情報					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書情報					
参考書名1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説(体育編)				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
参考書名2	まるわかりハンドブック				
出版社名	アイフィス	著者名	文部科学省		
参考書名3					
出版社名			著者名		
参考書名4					
出版社名			著者名		
参考書名5					
出版社名			著者名		
参考 URL					
<p>{小学校学習指導要領解説【体育編】},https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1</p>					

387017_010.pdf} {まるわかりハンドブック【文部科学省】, https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm }	
特記事項	
教員実務経験	
教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育センター教育指導員等としての指導経験を活かし、実践的な指導法について実技を通して学生に修得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「体育学習の教育的意義は？」【13-401】・自らの経験の振り返り、体育の教育的意義をつかむ
2	「体育科の目標とその内容」【13-401】・教育的意義の歴史の変遷を踏まえ、今日的課題と方向性を探る
3	「よい体育授業、運動の楽しさとは？」【13-401】・各運動の機能的特性と楽しさからよい体育授業について考察する
4	「模擬授業演習①」(体ほぐし/体つくりの運動遊び)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
5	「模擬授業演習②」(体ほぐし/体つくり運動)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
6	「模擬授業演習③」(感覚づくり運動・マット運動)【第2アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
7	「模擬授業演習④」(感覚づくり運動・跳び箱運動)【第2アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
8	「模擬授業演習⑤」(ゴール型ゲーム・ボール運動)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
9	「模擬授業演習⑥」(ネット型ゲーム・ボール運動)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
10	「模擬授業演習⑦」(ベースボール型ゲーム・ボール運動)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
11	「模擬授業演習⑧」(走・跳の運動)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
12	「模擬授業演習⑨」(陸上運動)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
13	「模擬授業演習⑩」(リズム・表現あそび)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
14	「模擬授業演習⑪」(ダンス・表現運動)【第1アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導のポイントについて学ぶ
15	「授業のまとめと振り返り」・授業全体を通じた振り返りと理解度を探る

科目名	社会科指導法	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					
授業目的と到達目標					
社会科の授業づくりは、難しい。1つは、取り扱う対象が、幅広い範囲にわたっていることである。2つは、社会に対する児童の知識や興味関心が、1人ひとり大きく違っていることである。3つは、社会事象を扱うにしろ、歴史事象にしろ、おおよそ正解というものがないことである。学生諸子には広く国際的視野に立つと共に、小学校社会科の目的を理解し、創造的な姿勢をもって社会科の授業づくりができるようになることを目標としたい。					
授業概要					
社会科の目標、社会科の内容について講義する。実際の授業記録をもとにして、社会科の授業づくりの在り方について研究協議する。学生諸子には、教科書や映像及び講義内配布資料等を参照し、指導案づくりと模擬授業に挑戦してもらいたい。その中で、自らの小学校社会科への興味関心や、教育に対する理解や授業創造への意欲も培われることと思う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
学習指導案づくりにおいては、単元設定が大切である。日ごろから、何をテーマとして自分は単元を設定し、教材化を図り、学習指導案を書くのか。教員を目ざす者としてのアンテナを張り、思考を深めておいてもらいたい。また、本講座では、板書をよく行う。学生諸子には筆記用具とともに、ノートも準備してもらいたい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末試験			60		
日常の回答文			20		
小レポート			20		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領解説 社会編				
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	初等社会科教育研究				
出版社名	学芸図書株式会社	著者名	山口幸男・山本友和編著		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
筆記用具及びノートを用意すること。講義時に資料を配布するので、ファイルを用意すること。	
教員実務経験	
小学校校長・大阪府教育委員会指導主事・大阪教育大学非常勤講師・常磐会学園大学講師	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに。講座のガイダンスと目標を明らかにする。
2	小学校社会科は、第二次世界大戦後に創設された教科である。戦前、戦中、戦後の歴史を概観しながら、なぜ社会科が創設されたのか、その目標と存立根拠について講義する。
3	小学校社会科の歴史の変遷について学ぶ。社会科は、昭和 22(1947)年に創設された。ほぼ 10 年ごとに学習指導要領が改訂され、社会科の内容・時間数等は変化してきた。その変遷の歴史を学ぶ。社会科は、他の教科に比べても、最も著しく時代の変化をその内容や目標に取り入れられてきた教科である。よりよい社会を創っていかうとする資質・態度を育成することを目標とする教科として、当然ではある。これまでの歴史を振り返るとともに、これからの社会科の在り方についても考察していきたい。
4	社会科の教科目標について講義する。文部科学省が発刊する「小学校学習指導要領」に記される教科目標を読むと共に、その内容について吟味・解説する。
5	『地域学習・郷土学習』の内容とその目標について講義する。併せて、地域学習の授業づくりについて事例をもとに研究協議する。
6	『地理的学習』の内容とその目標について講義する。併せて、地域学習の授業づくりについて事例をもとに研究協議する。学生諸子も、自身の知る、あるいは自身の住む地域について、地理的考察を深めてもらいたい。特に、日本は自然災害が多い国である。これまでの先人の防災の歩みと、現代における防災の在り方を調べ、地理と人々の生活との関係を学び合いたい。
7	5 年生『産業学習』についての授業づくりについて研究協議する。単元の設定時の留意事項や学習指導案の書き方についても講義する。
8	6 年生『戦争と平和』についての授業づくりについて研究協議する。私たちの先人は、第二次世界大戦という大きな犠牲を伴った戦争を経験してきた。戦争の記憶を引き継ぎ、平和と戦争の問題を考える授業づくりは、小・中学校問わず大切な課題である。立ち止まって現代の私たちの社会を考える動機作りにもなる。何を教材とし、どのように授業を構成するのか。具体例を挙げ、研究協議する。
9	6 年生『歴史学習』の授業づくりについて研究協議する。小学校の歴史学習は、他の単元でも同様であろうが、子どもたちが興味関心を持つことが大切である。そのためには、歴史を学ぶこと、調べることが楽しくなることが大切である。『楽しく学ぶ歴史学習』作りについて、1つの学習指導案を事例として提示する中で、学生とともに研究協議を行う。
10	学習指導案づくり(1)学習指導案の作成にあたっては、小学校における社会科教科書・文部科学省の学習指導要領を参照しながら、単元の設定や教材観の記述、本時の目標等を策定していかなければならない。教科書に載っている『古い道具と昔の生活』を参照しながら、目標の設定や教材観の書き方について講義する。また、授業の展開の在り方についても、研究協議を行う。
11	学習指導案づくり(2)5 年生における産業学習を例としながら、主に単元の設定の在り方と、教材観の書き方について講義する。
12	授業観察を行う。4 年生における社会科の授業を見て、社会科の授業の難しさと楽しさについて研究協議する。また、そこで得た認識を、自らの学習指導案づくりに活かせるようにする。
13	グループを設定する。グループごとに話し合いで、模擬授業の単元を設定し、学習指導案づくりを行う。まず大切なのは、単元設定である。単元を設定し、教材観、目標、本時の展開を考える。グループでの研究協議を大切に、指導案をまとめる。
14	学生による模擬授業第 13 講で作成した指導案を基にして、模擬授業を行う。研究・協議し、学生同士で指導案をより有効で創造的なものに作り上げていくことを大切にしたい。
15	まとめ

科目名	芸術表現演習Ⅲ(身体)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	小南 佳世				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある、芸術を通してこころを感じ取る感性や、子どもの育ちへの援助、こころを癒すことのできる能力を身につけ、子どもの良き理解者となる「保育士」、「幼稚園教諭」、「小学校教諭」を目指せる人材を育成することを目的とする。この授業を通して建学の精神の創造性の奨励に基づき、社会活動の中で必要な表現力を身につけることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>子どもの全面的な発達に向け、身体表現活動の重要性や身体のしくみなど、実践に必要な理論学び習得する。動くことを通して、子どもの発達を支援する身体表現・ダンスの基礎的理論や健康な心身を育む意義を学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業で行った内容の理解を深める為に復習をしましょう。ダンス技能の習得・向上には、練習が必要です。習ったことを反復し、意欲的に学習して下さい。授業には、動きやすい服装で出席して下さい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(受講時の意欲)			45		
練習による各々の成果			20		
身体表現・ダンス創作			15		
ダンス発表/レポート			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	新訂運動生理学概論				
出版社名	大修館書店	著者名	宮下充正・石井喜八		
参考書名2	臨床舞踊学への誘い 身体表現の力				
出版社名	株式会社 ミネルヴァ書房	著者名	柴 眞理子		
参考書名3	乳幼児のための豊かな感性を育む身体表現遊び				
出版社名	株式会社 ぎょうせい	著者名	瀧 信子ほか		
参考書名4	ダンスセラピー入門 リズム・ふれあい・イメージの療法的機能				
出版社名	(株)岩崎学術出版社	著者名	平井タカネ		
参考書名5	ダンスセラピーの理論と実践 からだと心へのヒーリング・アート				
出版社名	株式会社 ジアース教育新社	著者名	大沼幸子・崎山ゆかり・町田章一・松原豊		
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

ダンサー・療法士である教員が舞台や病院等での実務経験を活かし、実際の教育現場に必要な身体表現やダンスの技術、子ども達への向き合い方を指導する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ストレッチ/リズムについて 身体表現・ダンスを行うにあたり必要な、体の構造(筋肉・骨・脂肪)について学び、ストレッチ(準備体操・整理体操)の意義とその方法を身につける。 リズムについて身体表現を通して習得する。
2	身体運動の必要性/日本伝承の遊び 子どもの運動習慣の実態を知り、適度な運動習慣の重要性を学ぶ。 リズムと音楽に合わせた日本古来の子どもの遊びを知り、体験する事で、実際の教育現場で活かすことができるようにする。
3	世界伝承・日本伝承の踊り 教育現場に必要なフォークダンス・盆踊りについて学び、活用できるよう実践・習得する。
4	イラスト・文章からの振りおこし/指導練習 初等教育の現場で必要となる、イラストや文章からダンスの振りをおこす練習、そしてそのダンスを伝える練習を行う。
5	リズムダンス 基礎① 教育現場に必要なダンスのステップの基礎を学び、資料として残す練習を行う。
6	リズムダンス 基礎② 前回の続きのステップの基礎を学び、資料として残し、教育現場で活用できるよう習得する。
7	運動会のダンス 体験① 教育の現場に必要な、運動会などで行うマーチ曲でのダンスの振りを資料からおこし、習得する。
8	運動会のダンス 体験② 前回の復習と、続きのダンスの振りをおこし、完成を目指す。
9	運動会のダンス 創作① 教育の現場で必要となる、運動会などで踊るマーチ曲を選び、曲の構成や隊形の作り方等、運動会で踊るダンスの創作方法を学ぶ。
10	運動会のダンス 創作② 前回選曲したマーチ曲で、実際に運動会で踊るダンスの創作を行う。
11	映像からの振りおこし/指導練習 初等教育の現場で必要となる、映像から振りをおこす練習に加え、実際にダンスを指導する練習を行う。
12	空間・イメージについて 身体表現・ダンスを行うにあたり必要な、空間の使い方やイメージについて学び、身体表現を通して習得する。
13	ヨガ 体験 身体に意識を向け、深い呼吸のもとでヨガを行うことで、身体と向き合うことや心身の癒しを体験する。
14	子どものためのダンス 体験 子ども向けの曲に合わせたダンスを学び、習得する。
15	子どものためのダンス 創作/まとめ お遊戯会や発表会に備え、衣装・舞台装飾・ダンスの振り創作し各自発表する。 授業で学んだ事を振り返り、レポートを書く。

科目名	芸術表現演習 I (造形)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	佐藤 有紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
様々な造形素材を使用する活動体験を通して「造形活動」の意義や目的を理解し、子どもの表現力を高める手立てや指導方法を身に付ける。素材提示から評価に至るプロセスを学び、造形活動を通して、育てる「力」について考察を進める。					
授業概要					
(対面授業)生活の中にある造形素材に触れ、その扱いや加工法、材料、用具等の扱いを学ぶとともに「造形活動」への関心を高め、保育・教育活動への実践力を確実に高めていく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
素材体験を徹底して行う。版・紙・粘土などの素材を中心とした課題について子どもに指導ができるような技術と心構えの取得を目指します。使用する道具、教材はしっかりと準備して休まずに出席し、実技に積極的に取り組むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品・課題レポート			80		
授業・作品への取り組み態度			20		
教科書情報					
教科書1	なし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	保育をひらく造形表現				
出版社名	萌文書林	著者名	槇 英子		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

幼稚園・保育園での造形指導の経験を活かし、幼児教育における造形活動の意義や実践方法についての講義を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	(対面) 授業ガイダンス(授業内容と年間計画)
2	(対面) 造形活動の持つ意味(子どもの表現と造形素材について) 年齢発達と造形表現の傾向を知る。
3	(対面) 素材研究Ⅰ 版を使った造形活動の基礎的な展開 (1) 写す楽しさ(フロッターージュ)の素材研究と展開
4	(対面) 素材研究Ⅰ 版を使った造形活動の基礎的な展開 (2) スタンピング(版あそびの応用と発展教材)
5	(対面) 素材研究Ⅰ 版を使った造形活動の基礎的な展開 (3) 紙版の基礎(切り取り紙版・版つくりと発展教材)
6	(対面) 素材研究Ⅰ 版を使った造形活動の基礎的な展開 (4) 紙版の基礎(切り取り紙版・版つくりと発展教材)
7	(対面) 素材研究Ⅰ 版を使った造形活動の基礎的な展開 (5) のり版画・フィンガーペインティング
8	(対面) 素材研究Ⅱ 紙を使った造形活動の基礎的な展開 (1) 新聞紙を使う造形遊び
9	(対面) 素材研究Ⅱ 紙を使った造形活動の基礎的な展開 (2) 画用紙の活用(ペーパークラフト①)
10	(対面) 素材研究Ⅱ 紙を使った造形活動の基礎的な展開 (3) 画用紙の活用(ペーパークラフト②)
11	(対面) 素材研究Ⅱ 紙を使った基礎的な造形活動の展開 (3) 段ボールの活用
12	(対面) 素材研究Ⅲ 粘土素材を使った造形活動の基礎的な展開 (1) 小麦粉粘土
13	(対面) 生活素材を用いた作品制作
14	(対面) 生活素材を用いた作品制作(共同)
15	作品鑑賞とまとめ

科目名	教育学概論(初等)	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	前川 憲正				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>教育とは何か、教育の源流と歴史、教育学と哲学、教師と子どもの関係等について学び、教育学の基本的な内容について理解することができるようにする。さらに、小学校教育と学校、教師、子ども、保護者を取り巻く現代の教育課題の解決策や教師と教育のあるべき姿について考えることを通して、自己の課題を明確にして理論と実践を結び付けて主体的に学び創造的に社会に貢献しようとする態度を育てることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>前半は、講義形式で行うが、講師と学生との主体的・対話的な授業にしていきたい。後半は、課題について小グループごとに対話的に協議し、自らの考えを深め発表を行うことを中心に授業を展開する。前半は、毎回の授業内容を自ら振り返り、理解を深めてほしい。後半には、前半に身に付けた知識をベースに「ケーススタディ」や「グループワーク」を中心に教育学の基本的な考え方について協議し、自分なりの考えを確立してほしい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・受講にあたり、授業内容に関する教科書「絵で読む教育学入門」等を熟読すること・教員を志す者として授業規律を守り、主体的・対話的・協働的に学ぶ姿勢を大切にすること</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
グループ討議・レポート			30		
最終試験			40		
教科書情報					
教科書1	絵で読む教育学入門				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	広岡義之(著)・北村信明(絵)		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で適宜指示する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育センター教育指導員等としての指導経験を活かし、実践的な指導法について学生に修得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション「教育学ってなに?」【13-401】・授業で扱う内容の全体像を俯瞰し、授業のイメージをつかむ。
2	「教育とは何か」・教育の定義や教育の必要性について理解する。(アヴェロン野生児)
3	「教育の源流」・ソクラテスの「無知の知・助産術」などから教育の源流について理解する。
4	「教育の歴史」・古代ギリシア、ローマの教育、中世のキリスト教と教育思想等について理解する。
5	「初期の教育と学習①」・家庭と幼児教育の重要性、母親の影響力等について理解する。(ペスタロッチ)
6	「教初期の教育と学習②」・ホルヴィの愛着理論、連合理論S-R説、認知理論S-S説等について理解する。
7	「教育学と実存哲学①」・伝統的な教育学と実存哲学について理解する。(連続性と非連続性)
8	「教育学と実存哲学②」・連続(非連続)局面、人間の決断と自由等について理解する。
9	「教師と子どもの関係①」・教員に求められる教育的使命感や責任感について学ぶ。
10	「教師と子どもの関係②」・教師と子どもの信頼関係、教師の職業病について学ぶ。
11	「実存と出会い」・「我と汝」「我とそれ」の関係や特徴について理解する。
12	「青年期の教育問題と防衛機制」・カウンセリングマインド、無意識と人格構造等について理解する。(モラトリアム・中1ギャップ)
13	「日本の教育実践者たち①」・林 竹二の思想と実践について学ぶ。(林 竹二と斎藤喜博)
14	「日本の教育実践者たち②」・東井義雄の思想と実践について学ぶ。(児童詩、のどぴこ事件)
15	「授業のまとめと振り返り(含 最終試験)」・授業全体の振り返りを行い、学習内容を確かめる。

科目名	図画工作 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2024 年度 前期	形態	講義		
教員名	佐藤 有紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
美術教育とは指導者自らが製作の喜びを熟知、体感していることが肝要である。まずは様々な造形素材を対峙し、美術教育に必要な基礎知識と創作の技能を身に付ける。また教育における造形活動の意義を知り、様々な作品を鑑賞することによって表現を受け止める素養を培い、子どもの表現を引き出し、伸ばすことのできる力を身に付けることを目指す。					
授業概要					
(対面授業)図画工作は「ものをつくる」という行為が教育目的として存在する。この「ものをつくる」という行為は多岐多様な状況の連続である。教育現場の折々の状況に対応し、物事を多角的にとらえられる様、知識に依存することなく、造形活動を通して各人の「眼」「手」「身体」を関わらせ体得できるよう授業を進行する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・造形領域に関心を持つこと・授業内容に積極的に関わりを持つこと・「つくる」「表現する」ことを楽しむこと・指定の画材、素材の準備をして授業に臨むこと					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作課題の評価			60		
各回のレポート、授業ノートの記入内容			20		
受講態度・受講姿勢			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説				
出版社名	日本文教出版	著者名	文部科学省		
参考書名2	造形教育の手法				
出版社名	萌文書林	著者名	辻 泰秀		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

幼稚園・保育園での造形指導の経験を活かし、幼児教育における造形活動の意義や実践方法についての講義を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 造形活動を通じて子どもたちを培うもの
2	美術教育の変遷 子どもの絵をみる視点
3	美術教育における環境・教材・道具について
4	表現技法①(絵画表現)クレヨンの表現
5	表現技法②(絵画表現)水彩の表現(1)
6	表現技法③(絵画表現)水彩の表現(2)
7	表現技法④(絵画表現)墨の表現
8	表現技法⑤ 切り絵(1)
9	表現技法⑥ 切り絵(2)
10	表現技法の応用①ポップアップ絵本制作(ポップアップのしくみ)
11	表現技法の応用②ポップアップ絵本制作(内容のプランニング)
12	表現技法の応用③ポップアップ絵本制作・制作(1)
13	表現技法の応用④ポップアップ絵本制作・制作(2)
14	表現技法の応用⑤ポップアップ絵本制作・製本
15	まとめ・合評 振り返り

科目名	図画工作Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	佐藤 有紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
美術教育に必要な知識や技能の習得、及び指導法の基礎的知識の習得を目指す。教材研究を深め、指導技術の向上、教師としての資質を養う。					
授業概要					
図画工作の特性をふまえ、指導感、表現観、教材研究を基本とし教育現場で行われている造形活動の実践を中心に教師、子どもの視点から制作活動を行う。様々な教材、道具についての理解を深める。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内で使用する教材、道具の準備をしっかりと行い、授業に臨むこと。日頃より、様々な造形作品やアート作品、または素材に興味をもつこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作課題の評価			60		
各回のレポート、授業ノートの記入内容			20		
受講態度・受講姿勢			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	造形教育の手法				
出版社名	萌文書林	著者名	辻 泰秀		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
大学にて造形の基礎教育・幼稚園、保育園で造形指導の実務経験を持つ。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス 現代の美術教育に求められているもの
2	表現について・子どもの絵を観る視点
3	教材研究: 色彩・形
4	事例研究「絵にあらわす」①想像画
5	事例研究 絵に表す②描写
6	事例研究 絵に表す③デザイン画・抽象的な表現
7	事例研究 立体にあらわす①紙素材
8	事例研究 立体にあらわす②紙粘土
9	事例研究 立体にあらわす③ワイヤーアート
10	事例研究 工作にあらわす①光の形
11	事例研究 工作にあらわす②自然素材
12	事例研究 工作にあらわす③文字
13	事例研究 環境を使った造形活動(1)
14	鑑賞教育について
15	まとめ・合評 振り返り

科目名	生活科指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>受講した学生の感想文に、「生活科の授業では、子どもたちが“楽しい”と思って活動することが大切で、その楽しさを共有し合うことで感性が豊かになる。生活科は、子ども自身の生活を豊かにしていくことが根本ではないかと感じる。」というのがあった。講座の目標は、生活科の創造性豊かな授業づくりである。生活科における単元の設定ができ、学習指導案が作成できる力の獲得を目指す。</p>					
授業概要					
<p>生活科の創設時を知るとともに、生活科に求められる教科目標についての理解を図る。様々な資料や実際の授業づくり体験を通して、子どもたちが喜ぶ、そして自立につながる学習活動の創造に向けての学びを深める。また、指導案の作成や模擬授業を課す。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>生活科の授業づくりには、子ども理解と自由で豊かな教員の発想が大切になってくる。日常から、教育に携わることをめざすものとして、現代の子どもたちにどんな体験が必要と考えるか。自らの興味関心のアンテナを高めてもらいたい。受講にあたっては、筆記用具・ノート・ファイル(配布資料をはさむ)が必要である。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
小レポート			20		
日常の感想文			20		
期末テスト			60		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領解説 生活編				
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	シリーズ授業⑥ 生活 実践の批評と創造				
出版社名	岩波書店	著者名			
参考書名2	『子どもが育つ道すじ』				
出版社名	朱鷺書房	著者名	服部祥子		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
小学校校長・大阪府教育委員会指導主事・大阪教育大学非常勤講師・常磐会学園大学講師	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに。講座ガイダンスと講座目標について。
2	『生活科の誕生』生活科は、1992年4月から本格実施された。岩波書店刊の『シリーズ授業・生活科』においては、1989年の長野県の小学校での先行的な実践が紹介されている。本の副題に「実践の批評と創造」と記されているが、1年生の『紙を作る』授業が紹介され、各分野からの参加者が、授業批評と創造的な発言が記されている。本書を参考にしながら、生活科の授業づくりのあり方について研究協議する。
3	『生活科の授業における体験の意義』『シリーズ・授業 生活科』(岩波書店刊)を参照しながら、生活科の授業を体験する。生活科の授業づくりにおいては、体験を通した学びが重視されている。学生諸子にも、『紙を作る』を体験してもらい、体験学習の意義への理解を深めたい。
4	『生活科の問題点』副教材として示した『シリーズ授業・生活』(岩波書店)を読み、生活科の問題点について考察する。特に、「自分との関わり」とは何か。生活科授業における「教師の役割・支援」とは何かについて考えたい。
5	『生活科の目標』教科書としている「小学校学習指導要領解説 生活編」から、生活科の目標について講義する。特に、生活科の示す“自立”とは何か。“生活を豊かにする”とは何か。指導要領をめくりながら、「生活科の目標」についての理解をはかりたい。
6	『生活科の授業づくりについて』本講座の目標は、『生活科の授業づくり』ができる能力と態度の育成である。第13講、第14講では、学生諸子が作成した学習指導案をもとに、発表と交流、研究協議を予定している。授業づくりにおいて何が必要かを講義する。
7	『子ども理解』子どもの精神発達課題と生活科の関係について学ぶ。子どもの精神発達には段階があり、それぞれにおいて乗り越えるべき課題があることを理解する。『子どもが育つみちすじ』(服部祥子著)を参照しながら、子どもが育つ道すじについての理解を深め、生活科の授業づくりについての考察に生かしていく。
8	『実践記録を見る』東京・和光小学校の実践記録から、小学校2年生の授業づくりについて考える。生活科の授業づくりにはどんな要素や留意点が必要なのか。また、何を目標として設定していくのかを、実践事例を参照しながら理解を深めたい。また、授業を見る視点についても講義する。
9	『学習指導案を書く』生活科の学習は、体験活動が多く取り入れられている。この時、学習が実りあるものになるためには、活動の目標や手段が授業者や児童によく理解されていることが重要である。なによりも、授業者がしっかりと教材観を持っていることが求められる。講義内で活動例を提示し、その目標や教材観を研究協議する。また、授業案の書き方についても学生諸子の理解を深める。
10	『生活科の授業づくり』に向けて(1)様々な実践的事例(伝承遊び・季節の行事・生き物の飼育等々)について、映像や実地体験等を通して、生活科の授業づくりにおいて大切にしなければならない要素について学習する。また、生活科においては、単元設定がその授業づくりにおいて重要である。学習を通して、『単元設定』に向けての考察も深めていってほしい。
11	『生活科の授業づくり』に向けて(2)様々な実践的事例(植物の栽培・遊びの創造・町たんけん等々)について、映像や実地体験等を通して、生活科の授業づくりにおいて大切にしなければならない要素について学習する。また、学習を通して、学習指導案作成に向けての理解も深めていく。
12	生活科における評価について講義する。学習指導要領における「学習評価の在り方」や、講義資料として配布した『シリーズ授業・生活科』、『子どもが育つみちすじ』等を参照しながら、生活科における評価の在り方について講義する。
13	『模擬授業』を行う。(1)個人またはグループで作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。発表された活動について研究協議し、より有効な、子どもたちが楽しんで行う活動にする方法について、意見を交流する。
14	『模擬授業』を行う。(2)個人またはグループで作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。発表された活動について研究協議し、より有効な、子どもたちが楽しんで行う活動にする方法について、意見を交流する。

科目名	生活	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>生活科が創設されたいきさつから生活科の目標を理解する。創設時、生活科の新設理由として「生活や学習の基礎的能力や態度などの育成を重視する」ことや、「児童の心身の発達状況に即した学習活動の展開」が謳われている。本講座では、建学の精神でもある創造性を豊かに持つとともに、「生活科の授業づくりに向けて」の資質・能力の育成を目指す。子ども理解や、人間の『生活』への理解は欠かせない。子ども理解を深くするとともに、「豊かな生活を作る」とはどういうことなのかを考えていきたい。また、そのためには、学生諸子自身の自由の精神が</p>					
授業概要					
<p>人間の生活は、様々に変化してきた。その変化は、環境の変化がおよぼすものもあるが、社会の変化やその中の生活への考え方の大きくある。それらは、周りの変化や状況から受け取らざる負えないものもあつただろうが、人は、その中で、様々に考え選択してきた。その選択の中には、深く言えば「生きるとは何か?」「人間とは何か?」「豊かさとは何か?」という問いをめぐる思考があつた。生活とは、選択し、創造していくものでもある。本講座では、私たちは何を考え、どう生活を作ってきたのかも含めて、広く“生活”について知り、思考を深めてい</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
筆記用具およびノートを用意すること。講義内では資料を多数配布するので、ファイルも用意すること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
小レポート			20		
期末テスト			60		
日常の感想文			20		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領解説 生活編				
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	『子どもが育つみちすじ』服部祥子著				
出版社名	朱鷺書房	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
小学校校長・教育委員会指導主事・大阪教育大学非常勤講師・常磐会学園大学講師	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに講座の目標説明とガイダンスを行う。
2	『チンパンジーと私たち』約450万年ほど前に、私たちヒトは、樹上から地面に降りて、ヒトとしての種の道を歩んできたと言われる。霊長類研究者の松沢哲郎氏は「人間だけ見ていると、人間のことは分かりません。共通祖先から分かれたチンパンジーとの比較で、人間が分かります。」と話している。様々な種が生まれ、滅んでいくなかでヒトが発展してきた道のりを概観し、私たちヒトの特性を考える。
3	『子どもが育つ道すじ』小学校に入学するまでの子どもの成長について考える。服部祥子氏は、その著『子どもが育つ道すじ』において、「人間にはある程度普遍的に定まった、身体的・精神的・社会的発達のだんがかりがあり、一人ひとりの子どもがその道筋をたどって成熟していく。」と書いている。人間の発達について、大ざっぱでよいから、しっかりした知識を持つておくことが必要である。
4	『生活科と哲学』学習指導要領における生活科の教科目標には、「身近な生活に関わる見方・考え方を生かし」や「生活を豊かにしていく」という記述が出てくる。豊かな生活や幸せな生活をめざして生きる資質や能力の育成が目標とするならば、そこには、生き方に対する考え方・哲学が必要となってくる。ある一人の女性の生活風景から、「生活を豊かにしていくとは」、「自立するとは」ということなのかについて考察する。
5	『絵本を読む』生活科指導法のある受講生の感想に「生活科で絵本を読むにあたって、今日の授業で話し合っていて、季節に関係あるものや、動物・植物がテーマの絵本を読むべきなのかなと思った。しかし、生活科は、子どもたちの生活を豊かにしていくためのもので、日常が少しでも楽しかったり嬉しかったり、友だちや家族を大切に思いやる気持ちを持つことが、充実した生活の根っこではないかと感じた。」という文章があった。生活科の中での読み聞かせについて考える。
6	『むかしの遊び』子どもと遊びについて考える。「子どもにとっては、遊びが勉強である。」とは昔から言われてきた言葉である。現代の子どもの課題を考えながら、遊びが子どもの生活の中にある意味・意義について考察する。
7	『まちを歩く』子ども達は、家庭・学校・地域の中で育っていく。学習指導要領の教科目標の中でも、自分が育った地域への誇りと愛情を育てることの重要さが記されている。生活科は体験重視の教科である。体験活動の中で、「地域への誇りと愛情を育てる」とはどういうことなのかを具体事例を上げながら研究協議する。
8	『蚕を飼う』の実践記録から、生き物の飼育と生活科の授業づくりについて研究・協議する。生活科の中で生き物を飼育することの目的、教育的意義について考察する。
9	『生活科の目標』教科書としている「学習指導要領解説生活科編」から、生活科の目標について講義する。他の教科等との違いを明らかにするとともに、目標の中の「身近な人々、社会の特徴やよさに気付く」とはどういうことなのか。具体的な活動を想像しながら、その意味を考察する。
10	『子ども理解の方法』子どもは多面性を持つ。そして、「今日のAくんは、昨日のAくんではない」。生活科は、そんな子どもたちを対象にして単元を設定し、学習活動を創造していく。目の前の児童の心身の発達状況に即した学習活動が設定されることが求められている。つまり、単元設定は“子ども理解”の上に立っているのである。講座では、その方法について講義する。
11	『季節と行事』日本の伝統的な生活や季節の行事について考える。人間の生活の在り様は、先人が歩み築いてきた文化の在り様と密接に関連する。『季節と行事』の中には、取り巻く自然を見つめ、自然とどう付き合ってきたのか。地域のひとびととどのように生活を作ってきたのかを表れている。生活科の中で、どのようにしてその季節感や生活感覚を伝えていくのか、研究・協議する。
12	『町を歩く』小学校の生活科では、自分の学校を知ったり、また、自分の住む町を調べたりする。そういった活動の中で、自分の町を知り、自分の町に愛着が生まれていくように学習を組み立てている。学生諸子にも、自分が今住む所、生まれ故郷について見直してもらいたい。そこにどんな魅力があるのか。そこから私たちは何を受け取ってきたのか。子どもたちの町歩きの前に、自分の町歩きのしてもらいたいと考えている。

13	『すくすく子育て』子どもは、家庭の中で、地域生活の中で、その成長にとって大切なものの多くを受け取って成長してくる。ここで考えるのは、子どもの成長にとって、親や身近な者が果たすべき役割である。特に、小学校における生活科の内容と深く関係する「言葉の獲得」と「思いやる心の育ち」について考察する。
14	『子ども達にさせたい体験活動』の発表と交流。グループごとに『私が子どもにさせたい体験活動』について発表する。発表後に意見交流を行い、よりよい体験活動の創造に向けての協議を行い、授業づくりに対する認識を深める。
15	まとめと期末テスト。

科目名	社会	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	長谷 充康				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>社会科は地理的内容、歴史的内容、公的内容から成り立つ。しかし、小学校社会科はそれらを総合して社会を認識していくところに特質がある。教えるにあたっては、建学の精神である国際的視野に立っての幅広い知識と社会認識が必要となる。学生諸子には、社会事象、歴史、生活や文化に関心を持ち、自ら調べ、社会及び小学校社会科の内容に対する認識を深めてもらいたい。</p>					
授業概要					
<p>学生諸子が、日本の歴史、文化、宗教、現代社会の事象に関心を持つように、授業内配布資料、新聞記事や映像等を使って授業を展開する。また、社会に対する認識を培うには、自ら社会事象に関心を持ち、それら社会事象に対して自らの考えを育み、綴ることも大切である。授業では、考えること、綴ること、意見を発表することを大切にしたい。小レポートとして、自らの調べ学習をまとめ、発表することも課する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>筆記用具を持参すること。講義中には、板書を行います。ノートを用意してください。また、講義内では副教材や資料の配布を行うので、ファイル等を用意していただきたい。また、日頃より新聞を読み、ニュースを見、書物を読むことも、社会認識を広めるには大切なことだと考えている。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末試験			60		
日常点(第1講から第14講の14回分の学生感想文)			20		
小レポート			20		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領解説 社会編				
出版社名	東洋館出版	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	初等社会科教育研究				
出版社名	学芸図書株式会社	著者名	山口幸男・山本友和編著		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
小学校校長・大阪府教育委員会指導主事・大阪教育大学非常勤講師・常磐会学園大学講師	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに。講座のガイダンスと目標を明らかにする。
2	『二分法の世界観』というテーマで講義を行う。私たちは社会の一員であり、その構成員である。小学校社会科の目標の1つ目は、社会認識の育成である。学生諸子自身の社会認識の育成の一步として、社会の見方・考え方について講義する。
3	『新聞を読む』 新聞記事やニュース等、メディアで報じられる社会事象に関心を持ち、社会に対する知識を得、自らの認識を育むことの大切さを講義する。新聞の読み方、考察の仕方、文章化の方法について講義する。学生諸子には、自ら新聞記事を読み、その内容と自らの考えをまとめる小レポートを課題として課する。
4	『この国のかたち』について学ぶ。日本は、小さな島国である。土着の文化と、海外からやってきた異国の文化が融合され、そして独自の風習や文化が形づくられてきた。作家司馬遼太郎氏の作品を参照しながら、日本人がどのようにしてこの国の文化や風習を形づくってきたのかを講義する。また、これからの社会をどうつくっていくと考えるのかも、学生諸子を交えて考え合いたい。
5	シュブランガーの『郷土科の陶冶論』について講義する。シュブランガーは「人間というものは、大地と結ばれたこうした根元的なものを必要としている。」と述べ、そして、「ある人が故郷を持っていないと語られる場合、それは彼の人格には中心点がないといわれるのとほとんど同じ意味である。」と述べている。学生諸子自身の経験や考えを併せながら、シュブランガーの陶冶論について考察したい。それは、小学校の3年生ぐらいでの地域学習の授業づくりの在り方に繋がってくるからである。
6	『旅に出よう！』社会というのは、人々の生活と文化である。自らのまわりにある生活文化を見ることも大切であるが、知らない土地、知らない街に出かけ、未知の文化と触れ合うことも大切である。物事は、1つだけではなく、比較対照することで見えてくるものがたくさんある。またそこで、社会や自分の生き方に対する新たな見方・考え方や感じ方がうまれてくる。本や映像、人の話としても人々の生活や文化を知ることはできるが、自身の目で見、感じるものが大切である。将来、小学生に地理や歴史を教える時にも、実際に体験して得た知識や感じ方はとて
7	『地理的学習』について学ぶ。日本人は、外国人から見た時、無宗教のように見えるところがある。宗教は、人間の生活や生き方、社会の作り方に大きな影響を与えてきた。世界の宗教とともに、日本人の宗教についても考えてみる。作家・司馬遼太郎は、日本人には“無宗教の宗教がある”と語っている。そして、それは私たちの社会や文化・生活を作ってきた大きな要素であった。日本人と宗教について知り、考えることは、自国の社会認識をかたち作る上で欠かせないものと言える。
8	『歴史学習の在り方』について考える。小学校6年生の歴史学習は、人物学習が中心になっている。歴史的人物を学習することで、その時代の人々の生活や願い、社会の様子や課題について考え、学んでいくのである。現在のところ、副教材にも掲載されている『聖徳太子』を学習例として、歴史学習の在り方について考察する。
9	『公民的学習』について学ぶ。小学校社会科の究極的な目標は「公民的資質と態度の育成」とされている。小学校社会科の目標を理解するとともに、「公民的資質」の内容についての理解を深める。
10	小学校4年生、5年生では地域の産業や日本の産業について学習する。学習方法については様々にあるであろうが、この分野では、児童が自ら調べまとめる「調べ学習」が多く取り入れられている。学生諸子にも、自分で地域の産業を調べ、まとめることを課したい。対象は、産業だけに限らず、文化・生活・歴史的遺物に範囲を広げてもよい。自身で調べ学習をしてみる。小学校社会科の目標の最も中心的なものは、「公民的資質の育成」である。今回の地域を調べる学習活動が、どのようにして児童の公民的資質の育成につながっていくのか。今講義を通じて考察
11	『戦後日本の教育』の歩みを概観するとともに、知識理解を深めたい。特に社会科は、戦後に誕生した教科であり、戦前・戦中の教育の在り方の反省から出発した教科である。また、戦後日本の再生を期待して設置された教科でもある。その出発点にあたって、どのような経過で創設され、何を目標として内容が作られていったのか。そして、時代の変化とともに社会科の内容も変遷してきたことを学んでいく。社会科は、各教科と比べて、最も大きく時代とともにその内容が変遷してきた教科であるといってもいい。つまり、今後も変遷していく。どんな内容の社

12	ドイツの哲学者、マルクス・ガブリエル氏の『欲望の時代の哲学』を教材にして、現代社会についての考察を深めたい。資本主義が現代社会にどのような影響を与えているかの考察とともに、現代日本社会や日本人の在り方についての認識も深めていきたい。小学校社会科の目標は、「社会の中でよりよく生きていくために、そして社会を一層発展させていくために、人間は他の人々や社会とどのようにかかわっていくのか」まで視野を広げることが大切であるとしている。学生諸子も、現代日本社会に対する認識を深めてもらいたい。
13	日本社会は、戦後の高度経済成長期を経て、大きく変容してきた。農村や山村等、国土の様子、生活の仕方、仕事(産業)の在り方も大きく変容した。私たちの現在とこれからの迎える社会を考える時、その変容の足跡を見、考えることは、小学校社会科を教えるものとして学習しておかなければならないことである。記録映像をもとに、日本人が積み重ねてきた生活の工夫や努力・願いについて知り、自分の考えを持ち、“歴史”を学ぶことと現代日本を理解することの関係について、その認識を深めていきたい。
14	学生発表を行う。第1講から、自身が住む地域や日本の文化・宗教・歴史・人権・産業等について学んできた。学生諸子が特に印象に残った事柄に対し、深く掘り下げて考察してもらいたい。グループに分かれて互いの意見を交換し、発表・交流を行いたい。交流を深めることで、互いの興味関心を広げるとともに、知見も広げたい。
15	まとめ

科目名	英語科指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	東田 彰子				
クラス名	初等芸術教育学科				
授業目的と到達目標					
<p>小学校外国活動の基本理念を理解して、小学校で外国語を教える時に必要な、英語・外国語学習理論・指導法に関する知識を身につける。小学校英語指導の目標にそって、どのような内容を、どのような指導法や教材を使い進めるかを理解する。それに基づいて模擬授業を経験する。その中で英語の授業を展開できる指導技術を身につけることを目標とする。また英語で授業することに自信を持ち、さまざまな英語活動を行えるようになることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>前半は関連法規や理論に関する講義を行う。その後ビデオによる授業観察や授業案作成の技術を演習する。実際に児童の立場や指導者の立場に立って模擬授業を行ったりする。そのことを通して小学校における英語活動のねらいを理解するとともに、その指導法を身につける。模擬授業ではグループでの作業や発表、ディスカッションなどを多く取り入れていく。自身の中学校・高等学校での英語教員の経験を生かし実践的に指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>講義とともに参加型の授業を展開します。授業中の発表やグループワークの実習には積極的に参加してください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品提出			25		
レポート提出			25		
スモールトーク・スピーチ発表			25		
模擬授業に取り組む姿勢や態度			25		
教科書情報					
教科書1	Let's Try! 1, 2				
出版社名	文部科学省	著者名			
教科書2	英語教科書 5, 6年用				
出版社名	三省堂版	著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	小学校外国語活動の進め方				
出版社名	成美社	著者名	岡秀夫・金森強		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
2015年より本学の「英語教育(外国語教育)指導法」に携わっています。中学校英語教師の経験を生かしながら、小学校での英語教育について研究を重ねています。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス: 授業の進め方、テキスト参考文献について、成績評価などの説明 小学校での英語教育の意義と目ざすもの①: 文部科学省の小学校学習指導要領、関連諸法規、教育行政から学ぶ
2	学校英語教育の意義と目ざすもの②: 公立小学校で行われている英語教育のカリキュラムや教材などを参考にしながら実際に小学校で行われている学習について学ぶ
3	小学校における英語教育の実際: 英語教育の研究授業の録画ビデオなどを見ながら、授業メモをとる演習をする。 またどのような授業展開をするのが良いかグループでディスカッションする。
4	小学校における英語教育についてレポートを作成して提出する(成績評価の対象となります) 英語授業で使用される各教材を実際に用い、語彙や表現について研究する
5	クラスルーム English の活用 スモールトークについて学ぶ 楽しいゲームの紹介と運用の演習: 実際にゲームを使った授業の展開を考え、模擬授業の準備をする
6	日本と外国の文化や伝統のちがいについて学ぶ 外国の祝日や楽しい行事などを知り、授業に活用する方法を考える: ハロウィンやクリスマスにちなんだゲーム作りの模擬授業の準備をする
7	模擬授業①とその後のグループディスカッション
8	評価の方法について学ぶ
9	発表: 自己紹介カードを使って、自己紹介の後、スモールトークを行い、相互評価を行う
10	指導案作成について研究する 模擬授業の準備: 教材を決定し模擬授業の準備をする
11	模擬授業②: 発表及び相互評価をする(前半グループ)
12	模擬授業②: 発表及び相互評価をする(後半グループ)
13	ALT や地域人材の先生との授業について研究する 簡単な指導案を作成する
14	小学校における英語教育の考察: コミュニケーション能力向上のため学んだことをどう生かすか グループディスカッションする 小学校と中学校の英語教育の連携について学ぶ
15	小学校英語教育指導法の まとめと振り返り: グループで全講義を省みて振り返りのディスカッションを行う。その後レポートを作成し提出する。

科目名	英語(初等)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	東田 彰子				
クラス名	初等芸術教育学科				
授業目的と到達目標					
<p>授業の到達目標及びテーマ 2020年度より英語が小学校5,6年生で教科化された。そして3年生から英語活動が始まった。小学校教員として児童に英語を教えるために必要な言語習得についての理論や授業実践に必要な英語力や英語音声についての知識を養う。また発音とスペルの関係を理論と実践の両方から理解する。さらに小学校での教科として英語の授業ができる英語力と指導力を習得する。</p>					
授業概要					
<p>外国語習得に関する基本的な知識を得て理解する。英語の4技能である「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」「書くこと」を指導するために必要な知識や指導方法を学ぶ。また言語の仕組みへの気づきを指導するための具体的な英語運用能力を高める学習をする。フォニックスや絵本のリーディングを通し教材を開発する方法を学び4技能複合型の活動を行い、その育成をはかる。ICT教育の多様性を学ぶために、教材によっては zoom 授業を取り入れ、わかりやすく展開する方法を実習する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業はアクティブラーニング、授業参加型で行います。それぞれの活動に興味を持って取り組んでください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
小学校英語教育レポート			25		
指導案提出			25		
実習授業への参加状況			25		
授業を受けてのまとめのレポート			25		
教科書情報					
教科書1	「英語」教科書 5,6 年用				
出版社名	三省堂版	著者名			
教科書2	小学校学習指導要領(英語)				
出版社名	文部科学省	著者名			
教科書3	Let's Try 1,2				
出版社名	文部科学省	著者名			
参考書情報					
参考書名1	参考書・参考資料等 小学校外国語活動の進め方				
出版社名	成美社	著者名	岡秀夫・金森強		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

2015年より本学の「英語教育(外国語教育)(初等)」に携わっています。中学校英語教師の経験を生かしながら、小学校での英語教育について研究を重ねています。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス:授業の進め方を説明する。小学校英語教育導入の経緯と現状の把握をする。
2	講義:実際に行われている授業について学び、実態と問題点を知る。
3	発表:「自己紹介スピーチ」に使う提示物を作成する。「小学校英語教育まとめのレポート」作成
4	発表:自己紹介スピーチ 講義:小学校英語における4技能指導方法を知る単元: その技能を伸ばすために使える教材を知り、実際に活用してみる。
5	「スモールトーク」とは何かを学ぶ 実際に小学校で授業をするときの導入方法としての「スモールトーク」を個人で考える。
6	発表:スモールトーク グループに分かれ「スモールトーク」の発表会を行う。zoom 授業の中で、タイマーや総合論評者を決め、投票機能などを使って発表会を運営する方法を学ぶ。
7	フォニックスについて知る単元: フォニックスとはどんなものかを実際に知り、体験する。授業に生かす方法を学び、グループでその単元の構想をねる。
8	絵本を使った指導方法を学ぶ単元: 英語の絵本や日本の民話や昔話の英語版から選び、読み聞かせの練習をする。その後グループで発表しあい、相互評価する。
9	ICT 活用の単元: 楽しいゲームやクイズをICT 機器を使って作成してみる。日本と外国の文化や伝統の違いを学び、パワーポイントなどを使って、その違いに特化した教材作りを学ぶ。
10	コミュニケーション能力育成のための単元: ペアワークやグループワークをしながらコミュニケーション活動の方法を学ぶ。
11	チームティーチングについて学ぶ単元: DVD を見て実際のチームティーチングの様子を知る。同時に授業の流れを記録する方法を学ぶ。またチームティーチングの方法や教材などについて研究する。
12	教材研究の単元: 実際に教育現場で使われる、英語の教科書や"Let's Try"の教材を知る。それぞれの年間指導計画や実際どのように使われるかなど研究する。
13	授業課程と学習指導案の単元: これまでの学習の中から題材を選び、学習指導案を作る。
14	グループで「学習指導案」の検討を行う。
15	小学校英語教育のまとめと振り返り: グループで全講義を省みて振り返りのディスカッションを行う。その後レポートを作成し提出する。

科目名	幼児理解の理論と方法(幼児)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	児玉 陽子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
漢学の精神、実用的合理性、創造のための分化と境界領域の開拓および創造性の奨励に基づき、幼児理解の視点を獲得することを目指す。幼児を理解するということは、幼児の発達についての多面的な理解が不可欠である。その上で、①子どもの視座を持つということ、子どもの行為や表現の意味を読み解く、②子どもが安心して自己発揮できるような保育者としての基礎的態度、環境としての自らの存在についても理解し考察する、③子ども自らの育ちを支援するための理解の視点と技法を身につける以上を目的とする。さらに、幼児の発達のつまずき・保護者の心情に対する理解と対応についても学ぶ。					
授業概要					
幼児理解のための発達について(乳児期を含む)の基本的な知識を身につける。発達を理解した上での保育の展開について、具体的な方法を考え実践する。また、幼児理解を、事例を通して考える。さらに、幼児の成長発達過程におけるつまずきや保護者への支援の実際のなどについても考察し、実践的な学びの機会とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習...自らの子どものころを振り返っておくこと、子どもの絵本・遊びについて、資料収集等しておくこと。60分程度 復習...授業回のテーマについて振り返るとともに、子どもの発達に応じた絵本や遊び等を調べておくとともに、具体的な実践案を作成しておくこと。60分程度。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験に代わるまとめの課題			80		
授業内課題への取り組み①			10		
授業内課題への取り組み②			10		
教科書情報					
教科書1	使用しない				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	子ども理解と援助				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	高嶋景子・砂上史子編著		
参考書名2	幼児理解と保育援助				
出版社名	建帛社	著者名	田代和美編著		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
臨床心理士・公認心理師・小学校教諭専修免許精神科クリニック勤務・幼稚園子育て相談員子どもの発達相談・保護者の育児相談の経験から、具体的な事例に基づいて考察することで、理解の視点と実際の対応の技術を修得することができる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	幼児理解とは何か・「幼児」の見える世界幼児を理解するための視座・幼児理解の意義について
2	幼児の発達理解①理論の理解と保育者としての視点乳児期から幼児期へ
3	幼児の発達理解②理論の理解と保育者としての視点幼児期前半
4	幼児の発達理解③理論の理解と保育者としての視点幼児期後半
5	発達をつまずき偏りと支援・個と集団
6	援助の実際①発達の視点をもって幼児を理解するということについて、事例に基づき考える。
7	幼児理解のための方法と技術幼児の発達や学びを促すための具体的な方法・技術についての実践的研究
8	観察と記録幼児を「みる」まなざしとは？幼児の『なにを・どこを』観るのか。幼児を理解することによって育まれる『信頼関係』について理解する。
9	幼児の気持ちに寄り添うことの意味信頼関係と社会性の発達について
10	環境としての保育者①子どもと保育者との相互作用について。子どもの発達を支える保育者の役割とは。
11	環境としての保育者②カウンセリングマインドと自己理解
12	理解と支援の実際①子どもとの関係構築、保育者のあり方・具体的な対応について検討する
13	理解と支援の実際②子どもへの対応と保護者との連携について考察する
14	幼児理解についての総合的考察幼児理解のための基礎的態度とは何か・幼児理解のための方法について、場面・状況に応じた観察・記録を検討するとともに、個と集団についての理解と保育目標、教師の在り方について考察する
15	まとめの課題幼児を理解する際に求められる知識と対応・援助の技術について学び・修得したことについて確認する

科目名	教職実践演習(初等)	年次	4	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明、小山 久子、平良 伸哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教職課程の最終学年における、「学びの軌跡の集大成」として、将来幼稚園や小学校の教員となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補う。					
授業概要					
幼稚園教員、小学校教員として教育現場に出るために、自身の課題を見つめなおし、指導力の向上のための学修を自主的協働的に進める。また、教育委員会事務局などから外部講師を招き、教育現場の現状理解を深め、事例研究等を通して、「信頼される教員」となるための実践的な指導力、人間力を身につける。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教育実習やふれあい体験を通して学んだことを改めてこの授業で検証し教員として必要な最低の能力が身に付けられるよう積極的に学んでいくこと					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			50		
授業内での発言や取り組み			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	適宜授業内で配布します。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
校長・小中学校教員・教育委員会勤務の元教員が数多くの実践や経験を活かし現場実践に役立つ指導を行なう。					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス自己の課題を振り返り。まとめる。
2	教員にとって成長とは何かを考える。(教育委員会指導主事)
3	保護者対応の基本
4	特別支援教育の考え方と通常学級での対応①
5	特別支援教育の考え方と通常学級での対応②
6	虐待事案への対応①
7	日々の教育実践における人権教育免許状一括申請説明会
8	虐待事案への対応②
9	教育の情報化について
10	現場の教員との交流(幼稚園)
11	現場の教員との交流(小学校)
12	教員自身のメンタルヘルス
13	学校の抱える現状と課題
14	教員に求められるコンプライアンス(法令遵守と倫理観)
15	まとめ(振り返りレポートの作成)

科目名	総合的な学習の時間の指導法(初等)	年次	4	単位数	1
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	前川 憲正				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本授業では、横断的・総合的な学習を通じて、探究的な見方・考え方を身に付けるという「総合的な学習の時間」の特質を理解するとともに、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活から課題を見付け、探究する学びを実現するための、探究的な学習指導の在り方や指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識と技能を総合的かつ創造的に身に付ける。</p>					
授業概要					
<p>授業形態はペアやグループによる小集団学習を中心にしていると考えている。その中で、学生自らが、主体的で対話的な学びを経験する中で、総合的な学習の時間の意義や探究的な学習の意味、各学校で目標や内容を定め、特色ある指導計画や単元計画を作成することの重要性を理解させたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・受講にあたり、授業内容に関する小学校学習指導要領解説【総合的な学習の時間編】を熟読する・教員を志す者として授業規律を守り、主体的・対話的・協働的に学ぶ姿勢を大切にすること</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
グループ討議・レポート			30		
最終試験			40		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説【総合的な学習の時間編】				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)				
出版社名	株式会社アイリス	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
<p>{小学校学習指導要領解説【総合的な学習の時間編】},https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1</p>					

387017_013_1.pdf}|今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編),https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20210729-mxt_kouhou02_1.pdf

特記事項

教員実務経験

教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育センター教育指導員等としての指導経験を活かし、実践的な指導法について学生に修得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	「総合的な学習の時間の意義」[13-401 教室] ・自らの経験を振り返るとともに、総合的な学習の時間の教育的意義をつかむ。
2	「総合的な学習の時間の目標とその内容」 ・総合的な学習の時間の目標と育成をめざす資質・能力について理解する。
3	「総合的な学習の時間の学習指導の在り方」 ・総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方や探究的な学習について理解する。
4	「探究的な学習について実践事例に学ぶ①」 ・探究的な学習における学習過程の概要とその内容について理解する。
5	「探究的な学習について実践事例に学ぶ②」 ・探究学習のプロセス【①課題の設定】について理解する。
6	「探究的な学習について実践事例に学ぶ③」 ・探究学習のプロセス【②情報の収集】について理解する。
7	「探究的な学習について実践事例に学ぶ④」 ・探究学習のプロセス【③整理・分析】について理解する。
8	「探究的な学習について実践事例に学ぶ⑤」 ・探究学習のプロセス【④まとめ・表現】について理解する。
9	「探究的な学習における主体的・対話的で深い学びは？」 ・探究的な見方・考え方や探究的な学習過程での「主体的・対話的で深い学び」について理解する。
10	「全体計画と年間指導計画・単元計画の作成」 ・全体計画と年間指導計画の構成要素や単元計画作成の基本的な考え方・手順について理解する。
11	「実際の学校における実践事例に学ぶ①」 ・実際の学校における実践事例に学ぶとともに、これらを踏まえて学習指導案を作成する。
12	「実際の学校における実践事例に学ぶ②」 ・実際の学校における実践事例に学ぶとともに、これらを踏まえて学習指導案を作成する。
13	「実際の授業の進め方と指導のポイント①」 ・作成した指導案をもとに、探究的な学習を重視した指導についてグループ協議をする。
14	「実際の授業の進め方と指導のポイント②」 ・作成した指導案をもとに、探究的な学習を重視した指導についてグループ協議をする。
15	「授業のまとめと振り返り(含 最終試験)」 ・授業全体の振り返りを行い、学習内容を確認する。

科目名	道徳指導法(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35分の1の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。</p>					
授業概要					
<p>「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。授業者は、小学校教諭時代から実践的な経験を通して長らく「道徳教育」に関わってきた。公立・私立学校長として道徳教育を通したカリキュラムマネジメントにも携わってきた。それらを授業の中に効果的に反映する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ペーパーテスト			30		
指導案作成			40		
各授業の感想文			30		
ワークシート等の提出物					
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編				
出版社名	文部科学省	著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	道徳教育の方法				
出版社名	放送大学教育振興会	著者名	堺 正之		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
<p>小学校教諭時は、道徳部会に所属し、長年道徳教育および道徳科授業実践を行ってきた。また、堺市教育委員会(教育センター所長等)に在任中は、道徳教育をはじめ教員研修に携わった。さらに、本学においては、教育現場(小学校)で道徳教育の評価方法に関わる実践的研究を行っている。このような経験を生かして、本授業においては、道徳教育の重要性を知ることを通して、子どもの見方・道徳科授業のあり方について思考し、実践に向かう意欲を育む。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「道徳教育は必要ですか?」①・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	「道徳教育は必要ですか?」②・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	「道徳教育は必要ですか?」③・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」①・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。
5	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」②・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして児童が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	「模擬授業に挑戦しよう。」①・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。・教材研究を行う。
11	「模擬授業に挑戦しよう。」②・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、工夫する)。
12	「模擬授業に挑戦しよう。」③・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。
13	「模擬授業に挑戦しよう。」④・各自作成した指導案を活用して授業のあり方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、検討し合う。
14	「模擬授業に挑戦しよう。」⑤・異なる教材を使用する履修者どうしで、模擬授業を行う。
15	模擬授業を振り返り、授業のあり方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。

科目名	体育科指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	前川 憲正				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教科書のない小学校体育においては、時に「児童に何を教えたらいいの？」という学校現場の声が聞かれる。本授業では、生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現のために、児童の主体的・対話的で深い学びを通して、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合的に育成する体育科の創造的かつ実践的な指導力の向上を図りたいと考える。					
授業概要					
授業形態は、対面で可能な限りペアやグループによる小集団学習を中心にしたいと考えている。その中で、幼児期及び学童期の心身の発達の特性を理解するとともに、近年の子どもたちの体力・運動能力の傾向を知り、体力・運動能力や運動に親しむ態度の育成と健康の保持増進を目標においた運動領域・保健領域の授業展開と、指導と一体化した計画的な評価の在り方について追究していきたい。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・受講にあたり、授業内容に関する小学校学習指導要領解説【体育編】を熟読する・教員を志す者として授業規律を守り、主体的・対話的で協働的な学びを大切にする・模擬授業演習には、運動に適した服装、体育館シューズ等の準備をして参加すること					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
実践演習・レポート			30		
最終試験			40		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説【体育編】				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で適宜指示する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{小学校学習指導要領解説【体育編】,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_010.pdf} {まるわかりハンドブック【文部科学省】,https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1308041.htm}	
特記事項	
教員実務経験	
教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育センター教育指導員等としての指導経験を活かし、実践的な指導法について学生に修得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「体育学習の教育的意義は？」【13-208 教室】・自らの経験の振り返り、体育の教育的意義をつかむ。
2	「体育科における主体的・対話的で深い学びは？」【13-208 教室】・運動量の確保と対話的な学び、児童の主体性と教師の指導性について
3	「体づくり運動系領域・集団行動に関する指導」【13-208 教室】・教材研究と実際の指導・評価について理解する。
4	「模擬授業演習①」(体づくり運動系)【第2アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
5	「器械運動系・陸上運動系領域に関する指導」【13-208 教室】・教材研究と実際の指導・評価について理解する。
6	「模擬授業演習②」(器械運動系)【第2アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
7	「模擬授業演習③」(陸上運動系)【第2アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
8	「ボール運動系・表現運動系領域に関する指導」【13-208 教室】・教材研究と実際の指導・評価について理解する。
9	「模擬授業演習④」(ボール運動系)【第2アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
10	「模擬授業演習⑤」(表現運動系)【第2アリーナ】・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
11	「水泳運動系領域と保健領域に関する指導」【13-208 教室】・教材研究と実際の指導・評価について理解する。
12	「年間指導計画と1単位時間の指導の関連①」(運動領域)【13-208 教室】・年間指導計画(単元計画)及び評価規準を踏まえた学習指導案の作成
13	「年間指導計画と1単位時間の指導の関連②」(保健領域)【13-208 教室】・年間指導計画(単元計画)及び評価規準を踏まえた学習指導案の作成
14	「模擬授業演習⑥」(保健領域)【13-208 教室】・グループワークによる模擬授業と指導上の留意点
15	「授業のまとめと振り返り(含 最終試験)」【13-208 教室】・授業全体の振り返りを行い、学習内容を確かめる。

科目名	特別活動指導法(初等)	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	前川 憲正				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>学校における望ましい集団活動や体験活動を通して、児童の人間形成を図ることを特質とする特別活動とりわけ学級活動は、小学校教育全体にわたる基本的な活動と言っても過言ではない。その特別活動の教育的意義や指導原理を深く理解するとともに、実践事例や模擬授業等を通して「子どもの望ましい人間関係づくりへの支援こそが、すべての学習に共通する根本理念である」ということを創造的に修得させたいと考える。</p>					
授業概要					
<p>授業の形態は、学校現場での喫緊の課題に密着した「グループワーク」や「ケーススタディ」を中心として考えている。新学習指導要領の方向性を視野に入れ、「いじめ」「不登校」といった今日的な教育課題や特別活動を指導する教師に求められる資質など、「学校・学級生活の場で生きて働き、子どもの成長に寄与できる特別活動の指導のあり方」について講師と学生との主体的・対話的な授業を通して追究していきたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・受講にあたり、授業内容に関する小学校学習指導要領解説【特別活動編】を熟読すること・教員を志す者として授業規律を守り、主体的・対話的・協働的に学ぶ姿勢を大切にすること</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
実践演習・レポート			30		
最終試験			40		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説【特別活動編】				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で適宜指示する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{小学校学習指導要領解説【特別活動編】, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2019/03/13/1387017_014.pdf }{特別活動指導資料【小学校編】, https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_h301220-01.pdf }	
特記事項	
教員実務経験	
教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育センター教育指導員等としての指導経験を活かし、実践的な指導法について学生に修得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「特別活動の教育的意義」【13-401 教室】・オリエンテーリング(自らの経験の振り返り、特別活動の概略をつかむ)
2	「特別活動の歴史と今日的課題」・戦前・戦後の歴史的経緯を踏まえ、現在の特別活動の意義を問い直す。
3	「特別活動の改訂のポイント」・特別活動の改訂のポイントとその内容について理解する。
4	「学級活動に関すること①」・児童の日々の成長を支え学級の規範や文化を生み出す学級活動
5	「学級活動に関すること②」・現在及び将来の自分を見つめ、なりたい自分に向けて努力する学級活動
6	「児童会活動に関すること」・全校児童や異年齢集団の児童会で学校生活を楽しく豊かにする児童会活動
7	「クラブ活動に関すること」・同好の異年齢集団で学校生活を楽しく豊かにするクラブ活動
8	「学校行事に関すること」・学校生活を豊かにし、身に付けた力を総合的に発揮する学校行事
9	「特別活動と他の教育活動との関連」・各教科、道徳、総合的な学習、生徒指導との関連とちがいについて理解する。
10	「特別活動の実践演習①」・実践校の学級活動の指導事例をもとに指導案の書き方を理解する。
11	「特別活動の実践演習②」・学級活動の年間活動計画と指導事例をもとに各自で指導案を作成する。
12	「特別活動の実践演習③」・作成した指導案に従ってグループごとに模擬学級会を行う。(議題①)
13	「特別活動の実践演習④」・作成した指導案に従ってグループごとに模擬学級会を行う。(議題②)
14	「特別活動の実践演習⑤」・児童の意欲を高める学級開き・学級目標づくりを実践的手法で理解する。
15	「授業のまとめと振り返り(含 最終試験)」・授業全体の振り返りを行い、学習内容を確認する。

科目名	教育相談(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	梅林 厚子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業を通してディプロマポリシーにある子どもの良き理解者となる「保育士」、「幼稚園教諭」、「小学校教諭」を目指せる人材を育成することを目的とする。到達目標は次の3点である。 1) 学校教育における教育相談の重要性を認識し、教育相談の方法や教育相談の実際について理解することができる。 2) 「学校における」教師の相談のあり方として、基本的なカウンセリングの技法を使用することができる。 3) 様々な子どもの問題行動について、教師としてどのように対応するべきか、見通しを立てることができる。					
授業概要					
不登校やいじめ、虐待など、今日の子ども、保護者、教師を取り巻く環境・問題を考察しながら子どもを正しく理解し、問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいのか臨床心理学の知見をふまえ、幅広く学ぶ。また、基本的なカウンセリングの知識や技術を学ぶと共に、教師が行う「学校における」カウンセリングのあり方、及び、校内や地域などとの連携について理解を深め、その基本的な態度を身につけ、教育現場で活用できる力を養う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教員になろうという使命を自覚し、現代の教育上の諸問題に関心を向けておくことが望ましい。そのためにも、関連の書物を読んだり、新聞やネットなどの情報媒体を通して事前にテーマに関する内容を調べ、認識を深めておく。また、授業後は講義内容の振り返りやまとめを行うようにする。(予習:30分、復習:30分)					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
小テスト			50		
授業コメントシート(教員のコメントを記述して返却します。)			30		
受講態度			20		
教科書情報					
教科書1	毎回、資料プリントを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	教育相談ワークブックー子どもを育む人になるためにー【改訂版】				
出版社名	北樹出版	著者名	桜井美加・齋藤ユリ・森平直子		
参考書名2	よくわかる! 教職エクササイズ③教育相談				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	森田健宏・田爪宏二監修、森田健宏・吉田佐治子編著		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
元小学校教諭の教員が、クラス担任の経験を活かし、子ども理解のあり方や具体的な指導方法を授業する。また、現カウンセラー（臨床心理士・学校心理士）でもある教員が、子どもや保護者などとの相談経験を活かし、積極的傾聴の基本的態度や技法を指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	教育相談について 教育相談の意義と役割、教育相談の内容、教育相談の機能(心理教育的援助サービス)について解説する。		
2	学校教育における教育相談の歩みについて 教育相談の歴史や生徒指導と教育相談の関係、生徒指導の組織や学校と専門機関の相談の相違点について解説する。		
3	カウンセリングの理論について 精神分析、来談者中心療法、行動療法など、代表的なカウンセリング理論を解説する。		
4	カウンセリング・マインドについて 傾聴することの意義や傾聴の基本的な考え方(受容・共感・自己一致など)、教育相談技法について解説し、ロールプレイを取り入れながら授業を進める。		
5	教師のカウンセリング・マインドについて DVD「学校教育とカウンセリング」を用い、実際の個別面接場面「教師による事例」を視聴することで、積極的傾聴の認識を深める。		
6	グループアプローチについて 対人関係能力を育てるエンカウンターを解説すると共に、グループワークを通して構成的グループエンカウンターを体験する。		
7	子どものパーソナリティ理解について 子どもの欲求や発達課題、問題行動の意味や対応などを解説する。		
8	発達障がいへの対応について 発達障がいの基礎知識や発達障がいのある子どもへの対応について解説する。		
9	いじめへの対応について いじめの構造やいじめの様態、及び、いじめの予防やいじめへの対応について解説する。		
10	不登校への対応について 不登校の類型や不登校の経過、及び、不登校への対応について解説する。		
11	非行への対応について 少年法における「非行少年」のとらえや非行の心理的原因、及び、非行への対応について解説する。		
12	学校危機への対応や心のケアについて 学校危機への対応や危機後の学級運営の留意点、及び、子どもの心のケアや心理教育のあり方について解説する。		
13	教育相談のためのアセスメントについて 知能検査や性格検査(投影法、質問紙法、作業検査法)など、心理アセスメントについて解説する。 ・小テスト		
14	虐待への対応、保護者との連携や支援のあり方について 虐待が子どもに及ぼす影響、及び、保護者の心理や保護者対応の基本的な流れについて解説する。		
15	学校内での連携、地域社会・関係機関との連携、教員のメンタルヘルスについて 教育相談担当の役割、養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの校内での教育相談体制のとり方、学校外における専門機関等との連携のあり方、及び、教員のメンタルヘルスの維持と向上についても解説する。・後期の振り返り		

科目名	小学校教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	前川 憲正				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>小学校における教育課程の意義やその基準となるもの、教育課程の歴史的変遷等について学習するとともに、学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、そこで重視されている「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」の考え方について理解し、学校現場に生かす教育課程について創造的に考察することができるようにする。さらに、教育課程や指導計画の策定・編成の特徴や方法を理解し、実際に作成することで、実践的な技能を身に付けることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>前半は、講義形式で行うが、講師と学生との主体的・対話的な授業にしていきたい。後半は、小グループごとに指導計画の作成作業と発表を行うことを中心に授業を展開する。前半は特に、毎回の授業内容を各自が振り返り、理解を深めてほしい。後半には、前半に身に付けた知識をベースに「ケーススタディ」や「グループワーク」を中心に教育課程について協議し、指導計画を立案する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・受講にあたり、授業内容に関する小学校学習指導要領解説【総則編】を熟読すること ・教員を志す者として授業規律を守り、主体的に学ぶ姿勢を大切にすること 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
グループ討議・レポート			30		
最終試験			40		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説【総則編】				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で適宜指示する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{小学校学習指導要領解説【総則編】,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_001.pdf}	
特記事項	
教員実務経験	
教員が小学校教諭・教頭・校長、並びに教育研究会会長、教育センター教育指導員等としての指導経験を活かし、実践的な指導法について学生に修得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション「教育課程とは？」 ・授業で扱う内容の全体像を俯瞰し、授業のイメージをつかむ。
2	「教育課程の基準」 ・教育課程の意義やその基準となる法令や学習指導要領について学ぶ。
3	「学習指導要領の変遷①」(1947年～1976年) ・教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察する。
4	「学習指導要領の変遷②」(1977年～現行) ・教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察する。
5	「学習指導要領改訂の要点」 ・新学習指導要領の改訂のポイントについて学ぶ。
6	「教育課程の編成」 ・教育課程編成の原則と基本となる要素について学ぶ。
7	「教育内容の選択と組織化」 ・教育内容を選択・組織化する基本的な考え方について学ぶ。
8	「学力観の変遷と授業」 ・学力についての考え方の変遷について学ぶ。
9	「教育課程の実施と評価」 ・アクティブ・ラーニングの視点に立つ授業改善と評価について学ぶ。
10	「カリキュラム・マネジメントの充実」 ・カリキュラム・マネジメントの考え方について学ぶ。
11	「社会に開かれた教育課程の実現」 ・社会に開かれた教育課程の考え方について学ぶ。
12	「教育課程と指導計画の作成①」 ・これまで学習した考え方を基に指導計画を立案する。
13	「教育課程と指導計画の作成②」 ・教科横断的な視点から指導計画を立案・検討する。
14	「カリキュラムの評価と改善」 ・P-D-C-A サイクルによるカリキュラムの評価と改善について学ぶ。
15	「授業のまとめと振り返り(含 最終試験)」 ・授業全体の振り返りを行い、学習内容を確認する。

科目名	教職概論(初等)	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教職の意義・教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し進路選択に資する教職のあり方を理解させる。					
授業概要					
教員として必要な基礎知識を学ぶ機会と捉え、大きく4本の柱を中心に授業を進める。 ①教職の意義 ②教員の役割 ③教員の職務内容 ④チーム学校運営への対応。具体的事例や討議を中心に自己の考えをできるだけ発表できる機会を持つ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内で配布する資料や授業内容をしっかり把握し、自筆ノートを用意しまとめること。また、板書をしっかりノートに写し取ること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
定期試験(筆記)			70		
課題レポート			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領・小学校学習指導要領				
出版社名	出版)文部科学省	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
テキスト指定は特にしません。必要に応じてレジメで配布す資料をきちんと整理しておくこと。					

教員実務経験	
元校長・教育委員会指導主事の教員が小学校に関わる授業や課題を経験を活かし具体的事例を交えてわかりやすく解説する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	初年次教育② 相談窓口の周知、個別相談の仕方、健康・メンタルへの対応教職をめざす教職をめざす立場から、公教育の目的や教員の役割について討論を中心に考察する。
2	教員の日々の仕事について幼稚園や小学校の教員の1日の仕事を調べ、その特質を理解する。
3	子どもを理解する教師成長・発達の面から幼児期・児童期にある子どもの発達の特性を理解する。
4	子どもを理解する教師個の理解。一人ひとりの子どもを理解し、望ましい発達を支える教員の役割を考える。
5	現代の教育課題に対応する子どもを取り巻く環境の変化に対して教員が果たすべき具体的な役割を考える。
6	教員に今、求められていること。教員として現場に必要な能力とは何かを考える。
7	教員として生きる①教員のライフステージ幼児・児童・生徒への指導および指導以外の役割について理解する。
8	教員として生きる②コンプライアンス良き社会人、信頼される教員としての生き方を考える。
9	教員に求められる危機管理意識子どもの安全確保など教員に求められる危機管理意識について考える。
10	教員のメンタルヘルス教員のメンタルヘルスに関わる現状を知り、合わせて自分の生き方を考える。
11	チーム学校への対応①保護者・地域住民と教員として、地域住民や保護者とどのように連携すべきか考える。
12	チーム学校への対応②専門家・連携機関と(SC・SSW等)SC・SSWの役割について理解し、学校現場での取り組みを理解する。また、関係諸機関との連携の実際を知る。「虐待事案」への組織的対応について。
13	チーム学校への対応③連携の実際学校現場で行なわれている具体的な実践例(ケース会議等)について理解し、専門的知識をもとにしたアセスメントについて考える。「いじめ」事案をもとに校内連携を考える。
14	教員になるために、教職課程を見通し、コース選択を考える。今後の教職課程の選択について考え、自らの進む方向を決める。また教員採用試験についてその概要をしる。
15	まとめ(教員をめざすために必要なことについてワークシートにまとめる。まとめと試験。

科目名	図画工作科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
図画工作科の教科目標、育成すべき能力資質をさらに明確にし、授業づくりに必要な情報や技能を明確にしていく。また、具体的な授業場面を想定した授業設計を行なうことの出来る方法を身につける。					
授業概要					
実技指導に関連させながら、指導のポイントや工夫点を明確にしていく。また、鑑賞への取り組みについても作品を通して学ぶ機会を作ります。子どもの意欲を高めるための題材設定や材料・用具の工夫について討論しながら必要事項を身につけていきます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
実践的な指導の仕方について学んでいくので、自分なりの思いや考えがしっかり持てるよう日ごろから意識するように。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
テスト			50		
作品評価			50		
教科書情報					
教科書1	新学習指導要領にもとづく こどものアート				
出版社名	昭和堂	著者名	編著 車谷哲明・井関和代		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	小学校学習指導要領解説 図画工作編				
出版社名	文部科学省	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
元校長、美術団体の長や教育委員会指導主事(図工・美術)の教員が、現場経験を活かし具体的実践例をもとに指導力を育成する。					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	図画工作科の内容と構成について。新しい学習指導要領で大切にすべきこと。
2	図画工作科の内容研究「造形あそび」 ①造形あそびの特性解説と題材の分析(幼稚園～低学年)造形あそびの中で育つ力
3	図画工作科の内容研究「造形あそび」 ②造形あそびの特性解説と題材の分析(中学年～高学年)身近なあそびと造形活動
4	図画工作科の内容研究「平面に表す」 ①パス・水絵の具を使った題材の分析、きっかけ題材への工夫
5	図画工作科の内容研究「平面に表す」 ②パス・水絵の具を使った題材の分析、きっかけ題材への工夫
6	図画工作科の内容研究「平面に表す」 ①版画の指導計画の作成と実技指導(切り取り紙版)
7	図画工作科の内容研究「平面に表す」 ②版画の指導計画の作成と実技指導(スチレン版とその応用)
8	図画工作科の内容研究「立体に表す」 ①素材研究(ダンボールを使った教材研究)
9	図画工作科の内容研究「立体に表す」 ②素材研究(ペットボトルを使った教材研究)
10	授業場面を想定した授業設計 ①電子黒板と電子教科書の活用方法について(実践例をもとに考える)
11	授業場面を想定した授業設計 ②ipadを活用した授業設定の考察について
12	図画工作科の評価について ①作品の評価について(記録と結果をもと
13	図画工作科の評価について ②授業内における評価活動と助言の仕方について
14	模擬授業の実施(代表) ①学年、内容について事前に検討した計画に沿って代表者が模擬授業を行なう。
15	模擬授業の実施(代表) ②学年、内容について事前に検討した計画に沿って代表者が模擬授業を行なう。テスト

科目名	算数科指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	芝本 哲也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>1. 小学校学習指導要領(算数)の目標を理解し、基礎的な指導内容と指導上の留意点を知ることができる。</p> <p>2. 「数学的活動」の楽しさに関心・意欲を持ち、「数理的処理の良さ」に気づくことができる。</p> <p>3. 問題解決学習の進め方を理解するとともに、模擬授業をもとに具体的な授業場面を想起し、授業設計を行う方法を身につける。</p> <p>4. 授業場面を想起し、算数科学習指導案を作成し、模擬授業をプレゼンできる。</p>					
授業概要					
<p>・本講義は原則対面授業で実施しますが、コロナ禍拡大で大学方針の変更があればオンデマンド対応変更もあります。</p> <p>・小学校での教育を担う人材育成を念頭に置いて授業をすすめます。とりわけ、算数科の指導法を学び、実践できるよう、基礎的な指導内容と指導上の留意点を網羅した講義を行います。</p> <p>・実際の授業を想起して学習指導案を作成したり、模擬授業に取り組みます、また学生同士の意見交換を行い、より良い授業とは、を考えるような取り組みもすすめます。</p> <p>・また、講義の中で「問題解決型の算数問題」にも取り組みます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・教員となるにふさわしい態度で受講してください。</p> <p>・一人ひとりの子どもが、いかに興味・関心・意欲を持ち算数学習に取り組み、「わかった」「できるようになった」、更に「算数の面白さや良さ」を学ぶか、そのために、指導者としてどう考え、実践するか、柔軟な思考を持つように。</p> <p>・各講義の終わりに小レポートの提出を課す。・最終講義でレポート提出による試験を行う。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題レポート(講義後レポート等)			40		
講義・討論への積極的参加			20		
プレゼン(模擬授業実践)			30		
模擬授業指導案、最終レポート等			10		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編				
出版社名	日本文教出版	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	必要に応じ、その都度示す				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
大阪府公立学校教員・富田林市教育委員会指導主事として算数・数学教育の研究・実践してきた経験を活かして、算数教育を行う上での理論や具体的な指導法について授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業計画のガイダンス(15回の流れ、評価を理解する。算数・数学教育を考える)		
2	学習指導要領の動きと、算数科での目標を考え、授業にどう活かすかを考える。		
3	「評価」について考え、授業にどう活かすかを考える。		
4	「算数科を通して児童が学ぶこと」を学び、授業の組み立てにどう活かすかを考える。		
5	「数と計算」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える(1)。		
6	「数と計算」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える(2)。		
7	「図形」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。		
8	「量と変化」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。		
9	「データ活用」領域について、指導内容や指導法を考え、どう授業に活かすかを考える。		
10	模擬授業を通して授業の流れを考える。		
11	各自で授業の流れを考え、算数科学習指導案を作成する(1)。		
12	各自で授業の流れを考え、算数科学習指導案の作成する(2)。		
13	各自で作成した学習指導案をもとに、模擬授業をプレゼンし、意見交換を行う(1)。		
14	各自で作成した学習指導案をもとに、模擬授業をプレゼンし、意見交換を行う(2)。		
15	講義のまとめと、授業実践に向けた取り組みについて考える。最終レポート提出。		

科目名	教育方法論(初等)	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	芝本 哲也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>1. これからの社会を創る子どもたちを育成する上で、求められている教育とは何かを学び、説明できるようになる。</p> <p>2. いわゆる「すぐれた授業」とは、どのようなものであるかについて考え、意見を交わしあい、目標とする授業について自分の言葉で語れるようになる</p> <p>3. 各講義時間内の発表や意見交流、模擬授業などを通して教育に関わる者としての基礎・基本を培う。</p>					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、原則対面授業で行います。 ・教育に関連するを人材の育成を念頭に置いて授業をすすめます。 ・講義内容から教育に関わるうえで大切な事や、激動する社会の中でどのような教育が求められているのか、基礎的な指導内容と指導上の留意点を網羅した講義を行います。 ・学生同士の積極的な意見交流を行い、課題について考える取り組みを行い、コミュニケーション能力の向上を図ります。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関わる者となるにふさわしい態度で受講してください。 ・一人ひとりの子どもが、いかに興味・関心・意欲を持ち、学校園での生活を楽しみにして成長していく事ができるよう、指導者としてどう考え、実践するか、柔軟な思考を持つようにする。 ・積極的な意見交流を行い、各自の考えを拡げるようにする。 ・各授業の終わりに小レポートの提出を課すことがある。また、講義のまとめとして、模擬授業プレゼンの実施と最終レポートの提出を求める。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題レポート(講義後レポート等)			40		
講義、討論への積極的参加			20		
模擬授業プレゼン、授業指導略案			30		
最終レポート			10		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領(総則)」など、必要に応じて、その都度示す				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
大阪府公立学校教員・富田林市教育委員会指導主事として授業の研究・実践してきた経験を活かして、教育を行う上での理論や具体的な指導法について授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業計画のガイダンス。(授業の流れ、評価について理解する)		
2	これからの社会の動きから、幼保園、小学校における子どもの健全な育成に求められるものについて考え、学ぶ。		
3	幼稚園要領、学習指導要領から、これからの教育に求められることを学び、理解する。		
4	「主体的、対話的で深い学び」について基本の流れや考え方を学び、理解する。		
5	ユニバーサルデザインの活用、インクルージョン・ダイバーシティの考え方を教育に活用する事を考え、学ぶ(1)。		
6	ユニバーサルデザインの活用、インクルージョン・ダイバーシティの考え方を教育に活用する事を考え、学ぶ(2)。		
7	授業の構造化について理解し、学ぶ。		
8	GIGA スクール構想がすすむ中で、ICT 機器の活用を考え、学ぶ。		
9	子ども理解について、具体的な事案をもとに考え、その指導内容を発表し合い、考えを交流し、深める(1)。		
10	子ども理解について、具体的な事案をもとに考え、その指導内容を発表し合い、考えを交流し、深める(2)。		
11	授業計画と実施について考え、学び、理解する。次授業から取り組む模擬授業実践に向けた説明を聞き、概要を理解する。		
12	模擬授業実践(1)提示された「単元の導入部」について、模擬授業を設計・検討・作成する。		
13	模擬授業実践(2)前時に作成した、「単元の導入部」の模擬授業をプレゼンし、意見交流し、互いに高めあう。		
14	模擬授業実践(3)前時に続き、導入部の模擬授業をプレゼンし、互いに高め合う。		
15	講義のまとめ。最終レポートの提出。		

科目名	教育心理学(初等)	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	山田 佳代子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教育心理学の基礎的な知識の習得及び用語を理解する。そして、教育現場の様々な問題場面において、子どもの発達に沿った接し方ができるように、心理学的な知識の応用・技能の習得を目指す。					
授業概要					
教育心理学とは、教育に関係のある事象を心理学的に研究し、教育活動の効果を高めるのに有効な心理的知見と技術を提供する学問である。その領域は多岐にわたっているが、本講義では、発達、学習・教授、人格・適応、測定・評価、カウンセリングなどについて、系統的に学んでいく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
基本的に、事前に授業資料を配布する。それに目を通し(予習)、授業の時に持参すること。ファイルなどして整理・管理することが好ましい。できれば、参考書にも目を通してほしい。それをファイルなどをして整理・管理することが好ましい。授業の後は、小課題を出すので、指示に従って提出すること(復習)。時間的には、予習復習を合わせて1時間もかからないと思われる。できる限り毎回、児童書や絵本を紹介するので、その内容や子どもの姿などについても理解を深めてほしい。また、性格検査・IQ検査についても触れるので、真摯な姿勢で臨むこと					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験			80		
授業への取り組み(授業内の課題提出など)			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	やさしい教育心理学 第5版				
出版社名	有斐閣アルマ	著者名	鎌原雅彦・竹綱誠一郎		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

保健所の(元)母子保健事業嘱託の教員が、発達検査や面談などをしてきた経験を活かして、心理検査などの向き合い方について授業する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	教育心理学とは何かオリエンテーション。教育心理学の概要・領域・研究法について理解する。
2	学習と教授①心理学でいう「学習」の意味を理解する。基本的な学習理論やプログラム学習を学ぶ。
3	学習と教授②発見学習、有意味受容学習、ATI、メタ認知、動機づけなどについて学ぶ。
4	学習と教授③原因帰属、自己効力感、記憶、カクテルパーティー効果などについて学ぶ。記憶について、具体的には、記憶の過程、短期記憶、長期記憶、方略、忘却などである。
5	発達①発達とは何か、発達の原理や法則、発達課題について学ぶ。
6	発達②主に、胎児期から青年期までの発達過程を学ぶ。
7	学級集団学校における基本的な単位である学級集団について、理解を深める。
8	人格・適応①パーソナリティとは何か？ パーソナリティについて、その意味や理論、代表的な類型論についても理解する。サイモンズの養育態度についても学ぶ。
9	人格・適応②欲求とは何か、また、葛藤や適応、適応機制について学ぶ。
10	人格・適応③子どもの問題行動や心身症、発達障害について学ぶ。
11	測定・評価①教育評価とは何か、歴史や理論などについて学ぶ。
12	測定・評価②学習評価について学ぶ。具体的には、教師作成テストや客観テストについて、学習する。また、指導要録や教育統計についても理解する。
13	測定・評価③知能および知能検査、代表的な性格検査について学ぶ。
14	カウンセリングカウンセリングとは何か、その目的や種類・方法などについて理解する。
15	まとめと試験総まとめと試験をする。

科目名	幼児と音楽表現Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	津田 奈保子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ディプロマポリシーに基づき、幼児の音楽表現における育ちの援助方法を習得する。幼児期において育みたい資質・能力について理解し、幼児の発達に即した主体的で対話的で深い学びが実現するよう具体的指導場面を想定して教材研究をするとともに、環境・指導法を実践的に理解する。Iで学んだことをベースに乳幼児の声や歌の関わりから世界を広げ、音との関わりや物との関わり、楽器との関わりを中心に学び、音楽表現を支えるための伴奏のあり方や合奏のあり様についても深める。					
授業概要					
身の回りの音との関わりを持つための環境整備について学ぶ。また身の回りの音から、簡易な楽器を使って遊ぶ幼児の音楽活動の指導法を身につける。決して一方的な指導をするのではないことを学び、一人一人の表現を認めたくえでの楽器活動指導法と評価方法を考察する。楽器の基本的知識も身につけ、幼児の社会性や言葉の発達、身体運動能力についても理解したうえで、幼児が主体的に楽しめる合奏の指導法を学ぶ。そのために必要な編曲技法も身につける。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
グループ活動も行うため、他力本願にならず積極的に関わること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			50		
授業内で提示する課題			25		
合奏譜作成			25		
教科書情報					
教科書1	『乳幼児の音楽表現』				
出版社名	中央法規	著者名	赤ちゃん学会		
教科書2	こどものうた 200				
出版社名	チャイルド	著者名	小林美実		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説(最新版)				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省(編著)		
参考書名2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)				
出版社名	フレーベル館	著者名	内閣府・文部科学省・厚生労働省(編著)		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

認定こども園保育教諭、保育所保育士であったこと、現在も幼児教育での指導を行っている教員が、乳幼児への音楽指導を活かして、乳幼児にふさわしい具体的音楽経験について指導する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	授業の概要。幼児期の器楽活動は、上手にできることが目的でないことを知る・幼児期に育みたい資質・能力について
2	身の回りの音に触れる様子、物の認知や思考について・幼児理解を通して音遊びにより生活を豊かにする方法
3	簡易な楽器に触れ、自由に使って表現する楽しさについて学ぶ・生活を豊かにする楽器遊びについて
4	音の不思議や楽しさが体験できる保育について・身の回りの物を使った音遊びについて
5	0,1,2歳の発達をおさえた物との出会いについて・0,1,2歳児の音遊びを考案する
6	3,4歳児の発達をおさえた音遊びの保育について・社会性の発達を踏まえた楽器遊びのあり方を考察する
7	5,6歳児の発達を踏まえて、楽器遊びを考案し、簡易な合奏を作成する・工夫する楽しさを味わわせる主体的な合奏について
8	幼児に無理の無い器楽活動の編曲方法について・より豊かで心揺さぶられる音楽活動について
9	幼児の主体的活動としての音楽活動を理解する・幼児の思いを阻害しない合奏譜の作成について
10	作成した合奏譜を実践し、指導法を考察する・評価法について理解し、指導の改善について学ぶ
11	絵本の中の音をイメージし、楽器や情報機器を用い効果音を入れて読み聞かせ実践をする・音の不思議や楽しさが体験できる保育について考察・音のイメージを育む保育について
12	絵本の中の音をイメージし、読み聞かせを実践・音・声を複合的に使用した保育について考案・指導法について考察する
13	音・声・動きを使って表現する幼児の表現について・指導法について考察する
14	幼児が主体的に取り組む保育内容について・幼児表現の援助となるような伴奏法について学ぶ
15	まとめ これまでの学びを総合的に判断し、幼児理解に立ち、改善点について考える・ピアノ伴奏にこだわることなく、幼児の表現支援の目線で保育者のありようを考える

科目名	音楽 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2024 年度 後期	形態	講義		
教員名	津田 奈保子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ディプロマポリシーに基づき、芸術を通じた児童の援助を学ぶ。そのため、小学校教員・幼児教育に必要な音楽知識、読譜力と記譜力を身に着ける。音楽とは何かについて考え、音楽の発達してきた歴史・日本の音楽教育の歴史についても、浅く広く知識を身に着けることを目的とする。					
授業概要					
対面授業教育現場での音楽指導をするうえで欠かせない音楽的基礎を学ぶ。楽譜上の約束事を「楽典」というが、五線、譜表、拍子、調性、速度標識、発想標語などを中心とした楽典に対する知識を深める授業を行う。知識のみではなく、それを生かして音にすること、音楽にすることも授業の中で適宜行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
確実に楽典力を身に着けるため課題が頻繁にでます。取り残しがないようについてきてください。特に後半は難しくなるので、各自復習をして確実に身に付けてください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出物、レポート			30%		
確認テスト(2回)			70%		
教科書情報					
教科書1	改訂「音楽通論」				
出版社名	教育芸術社	著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で適宜紹介する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

打楽器奏者、小学校教諭(音楽専科)であった教員が、音楽的・音楽教育的知識を活かし、教育現場に必要な音楽的知識を授業する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	オリエンテーション(授業の進め方などの説明) 音の長さ、休符の長さについて。音楽の歴史1
2	いろいろな拍子について。音楽の歴史2
3	音の高さについて。音楽の歴史3
4	音部記号、音名、幹音と派生音について。音楽の歴史4
5	強弱記号について。音楽の歴史5
6	速度記号と速度標語について。音楽の歴史6
7	楽典確認テスト1。そのほかの記号について
8	音程について。グループによるリズムアンサンブル。
9	派生音を含む音程について。グループによるリズムアンサンブル2
10	転回音程について。グループによるリズムアンサンブル3
11	長音階と短音階について。グループによるリズムアンサンブル4
12	関係調について。動きを使ったリズムアンサンブル
13	3和音について。動きを使ったリズムアンサンブル2
14	コードネームについて。コードネームを用いた伴奏法について
15	楽典・リズム・メロディ確認テスト2

科目名	保育内容(環境)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024年度 前期	形態	演習		
教員名	三原 あけみ				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
幼児は自分の周りにある物や人や自然などの環境を自身の遊びの中に取り入れ、遊ぶ中で幼児期に体験しなければならないことを体得する。環境との出会わせ方や幼児にふさわしい環境について学習していきたい。					
授業概要					
幼児にとり、どのような環境が大切なのか、実際に遊びを体験する中で、幼児が取り組む遊びの楽しさを体得し、どのように環境と出合わせていくのかについて習得させていきたい。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
学生自身が身の周りの自然に関心をもち、季節の変化などに気付けるようになりましょう。五感を磨きましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験			60		
授業への取り組み・ワーク			40		
教科書情報					
教科書1	保育内容「環境」				
出版社名	北小路書房	著者名	小田豊 湯川秀樹		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
長年の幼稚園現場での経験を活かし、保育内容(環境)について具体的な指導を行う					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				

1	幼児教育の基本と保育内容「環境」・保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい、内容について
2	子どもにとっての「環境」・幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際
3	領域「環境」のねらい・内容の展開の実際・園内で行われる幼児の遊びや活動
4	実際の保育環境を作ってみよう・夏野菜を植え、世話をする
5	自然事象への関心を高めるためには・四季の変化を保育に取り入れる・好奇心・探究心を育てる保育者の働きかけ
6	思考力の芽生えと環境との関わりからの学び・標識・ことば等にかかわる保育の実際・数量・図形等にかかわる保育の実際
7	自分を取り巻く社会の文化にふれる・社会の文化や伝統行事にふれる
8	自然や身近な素材を用いた保育の実際①・指導計画をたててみよう
9	自然や身近な素材を用いた保育の実際②・模擬授業と振り返り
10	自然や身近な素材を用いた保育の実際③・模擬授業と振り返り
11	自然や身近な素材を用いた保育の実際④・模擬授業と振り返り
12	身近な環境・植物に親しむ・育てた野菜の収穫をする・見通しを持って植物環境を作るー実践事例より考えるー
13	自然や身近な素材を用いた保育の実際⑤・振り返りと評価、改善
14	環境にかかわる現代的課題・ユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育・安全環境
15	保育内容「環境」についてのまとめ試験を実施

科目名	幼児と環境	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	寺田 恭子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育要領に示されたねらいや内容について理解を深め、幼児の発達に即して、幼児が主体的・対話的な深い学びを実現できるように、「環境」の具体的指導場面を想定して、保育を構想する方法を身に付ける。</p>					
授業概要					
<p>幼稚園教育要領の「環境」のねらいと内容を理解する。「自然とのかかわり」「ものとの関わり」「数量と文字との関わり」「地域や社会とのかかわり」のそれぞれの視点から、「幼児が好奇心や探究心をもって主体的に学びを深め、生活にとりいれていこうとする力を養う」ための事例を学ぶ。領域「環境」がめざす保育構想の向上に取り組む。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>「環境」は、「自然」「もの」「地域社会」「数量と文字」との関係によって培われる領域である。新聞やテレビ、webなどでの情報に関心をもつこと、幼児が保育の中で「環境」課題を獲得するためにどのように関わったらいいのか、について考察を深めて欲しい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業参加度(主体的な授業姿勢も含む)			20		
授業ノート			20		
保育教材製作(発表も含む)			50		
授業レポート・報告書			10		
教科書情報					
教科書1	自主プリント配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領(最新版)文部科学省				
出版社名		著者名			
参考書名2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省				
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
NPO 法人の役員として「冒険遊び場プロジェクト」を開催してきた経験を通して、地域の公園や自然の中で遊びを創出する楽しさや課題を伝えた上で、多様な環境と遊びについて検討する授業を展開したい。また、自治体の子育て支援委員の経験を通して、子どもの重要な環境である親との関係性について学習を深めたい。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	領域「環境」のねらいと内容・本授業のガイダンス・幼稚園教育要領が示す「環境」について、学生たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。
2	ヒトの進化・発達と環境 1 ヒトの主体性を環境との関連から学ぶ DVD「なぜ人間になれたのか1」を視聴する
3	ヒトの進化・発達と環境 2 ヒトの主体性を環境との関連から学ぶ DVD「なぜ人間になれたのか4」を視聴する。
4	ヒトの進化・発達と環境 3 ヒトの主体性(環境に適応する生きる力)について、先行研究における理論を紹介する。講義内容と自己分析をノートにまとめる。
5	幼児と「もの」「自然」環境・生活の場としての保育環境を考える。環境をねらいとする保育を想定し、時代と「もの」、季節と「もの」、保育室、園庭など園内の環境について、DVD「保育内容:環境」を視聴する。
6	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める①・「自然」「もの」「数量と文字」「地域と社会」の4つの視点から保育構想を深める。「すごろく」保育教材を通して、領域「環境」のねらいを深める。先行研究を通じた「すごろく」の保育・教育の取り組みを考察する。
7	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める②「すごろく」の製作
8	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める③「すごろく」製作計画書の提出
9	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める④「すごろく」製作計画書の提出
10	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める⑤「すごろく」の製作
11	領域「環境」のねらいと内容に基づき、保育の構想を深める⑥「すごろく」の製作
12	領域「環境」の「すごろく」発表 ①・情報機器、教材を活用して発表する。・相互評価を通して学びを刺激し合い保育者の視点を深める。
13	領域「環境」の「すごろく」発表 ②・情報機器、教材を活用して発表する。・相互評価を通して学びを刺激し合い保育者の視点を深める。
14	領域「環境」の「すごろく」発表 ③・情報機器、教材を活用して発表する。・相互評価を通して学びを刺激し合い保育者の視点を深める。
15	本授業のまとめレポート提出

科目名	幼児と健康	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	寺田 恭子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
幼稚園教育要領に基づき、幼児の健康な心と体を育て、「幼児自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。運動あそびや食育、生活リズム、睡眠、基本的な生活習慣など、幼児の健康課題をふまえ、具体的な保育場面の中で、どのように幼児自身が健康で安全な生活を営む力を形成していくのか、指導方法を学習し、身に付ける。					
授業概要					
対面授業幼児の現在の生活における健康課題を学生たちの問題意識から焦点化し、幼児のより健康で安全な生活を目指すために、「幼児の育てほしい姿」を明確化する。具体的な保育場面、指導場面、実践事例を提示しながら、幼児の心身の発達と道すじ、育みたい資質・能力を理解する。教材づくり、指導方法の実習を通して、保育者としての視点を身に付ける。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
「幼児と健康」は、自分自身の健康と深くかかわっている。自分の生活を振り返るところからスタートをし、新聞やテレビ、webなどでの情報に関心をもつこと、また幼児が保育の中で「健康」課題を獲得するためにどのように関わったらいいのか、について考察を深めて欲しい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業の参加度			20		
授業ノート			10		
お弁当製作・発表			40		
授業内小テスト			30		
教科書情報					
教科書1	自主プリント配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領(最新版)文部科学省				
出版社名		著者名			
参考書名2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版) 内閣府・文部科学省・厚生労働省				
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
高校家庭科教員の専門領域である食と栄養の知識を活かして幼児に求められる食育の意味を学生とともに考えたい。保育所、認定こども園、幼稚園における親支援講師、阿倍野区食育アドバイザーの経験を通して、保護者を支援できる食や健康について深める授業を行いたい。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「健康」領域のねらいと内容・本授業のガイダンス・幼稚園教育要領が示す「健康」について、学生たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。
2	幼児の健康な育ちを支えるために ①・幼児の健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材を用いて理解する。
3	幼児の健康な育ちを支えるために ②・幼児の健康課題とその背景について テキストや視聴覚教材、グループワークを通して明らかにし、「幼児の育て欲しい姿」を理解する。
4	幼児の運動能力の発達とあそび・視聴覚教材を活用し人の身体発達・運動発達の方向性と臨界期を理解した上で、保育場面の遊びについて理解を深める。
5	幼児の心の発達と健康 ・幼児の心理発達を理解した上で、家庭での親子関係の重要性和保育者の役割を理解する。(視聴覚教材活用)
6	「幼児と健康」における・生活リズム、睡眠、基本的な生活習慣の獲得と発達について理解する。・食育について理解する。・安全教育と安全意識を理解する。
7	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ①・パワーポイントを活用し、幼児にとって必要な食生活を知る・栄養面における知識を身につけ、幼児の食生活の課題を深める
8	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ②・パワーポイントを活用し、幼児にとって必要な食生活を知る・栄養面における知識を身につけ、幼児の食生活の課題を深める
9	幼児の食に関する教材づくりと指導方法 ③・パワーポイントを活用し、幼児にとって必要な食生活を知る・栄養面における知識を身につけ、幼児の食生活の課題を深める
10	幼児の食に関する保育場面での課題 食に関する事例研究 授業内小テスト
11	幼児の食に関する教材づくりワーク① ・粘土による4歳児のお弁当づくり計画書作成 1. 4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 2. 粘土を用いてお弁当の食材を作る
12	幼児の食に関する教材づくりワーク ②粘土による4歳児のお弁当づくり」 ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いてお弁当の食材を作る
13	幼児の食に関する教材づくりワーク ③粘土による4歳児のお弁当づくり」 ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いてお弁当の食材を作る
14	幼児の食に関する教材づくりワーク ④粘土による4歳児のお弁当づくり」 ・4歳児の栄養のバランスを考えた献立作成 ・粘土を用いてお弁当の食材を作る
15	「幼児と健康」における授業のまとめ・「粘土による4歳児のお弁当づくり」の作品発表と相互評価 ・家庭との連携と本授業のまとめ

科目名	理科	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	平良 伸哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 小学校理科のねらいや授業展開、指導の在り方を具体的な単元に即して理解することを目的とする。 到達目標: 児童が興味関心を持ち、主体的に活動できるような理科の指導法の基礎を身に付け、小学校理科の学習指導案を作成するための基礎的な知識を身に付ける。</p>					
授業概要					
<p>小学校理科の4つの内容区分(エネルギー、粒子、生命、地球)から、代表的な単元をとりあげ、そのねらいや展開の方法を具体的に解説する。講義形式に偏ることなく、可能な限り、受講生どうしの対話を取り入れる。教員が小学校教諭としての経験を活かし、実際の授業を行うにあたっての留意点や指導案の書き方を具体的に解説する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>身の回りの自然事象について、日頃から関心をもって情報を収集し、自分なりに疑問をもったり調べたりしておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎時間果たす授業の振り返り			100		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

{小学校学習指導要領理科
編,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_005_1.pdf}

特記事項

教員実務経験

小学校教諭の実務経験をもつ教員が、実際に授業を行ってきた経験を活かし、主体的・対話的で深い学びになるような理科の授業づくりについて解説する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	理科教育と科学("科学的とはどういうことか"を理解するとともに、理科教育の目標、素材と教材について学ぶ)
2	理科のトリビア(自然科学に親しみをもつとともに、これまで自分が受けてきた理科教育を振り返る)
3	物の溶け方Ⅰ(教材について理解を深めるとともに、「問題解決」「問題意識の醸成」について学ぶ)
4	物の溶け方Ⅱ(教材について理解を深めるとともに、「粒子」を柱とする領域の見方・考え方について学ぶ)
5	金属、水、空気と温度Ⅰ(教材について理解を深めるとともに、「問題解決の実行の場面」について学ぶ)
6	金属、水、空気と温度Ⅱ(教材について理解を深めるとともに、「振り返り」と「問題解決の連続発展」・安全な理科実験について学ぶ)
7	月と太陽(教材について理解を深めるとともに、「地球」を柱とする領域にける見方・考え方について学ぶ)
8	月と星(教材について理解を深めるとともに、「対話のさせ方」について学ぶ)
9	土地のつくりと変化(教材について理解を深めるとともに、「発問」「板書」について学ぶ)
10	植物の発芽・成長・結実(教材について理解を深めるとともに、「生命」を柱とする領域における見方・考え方に条件統一などの「考え方」について学ぶ)
11	電気の通り道(教材について理解を深めるとともに、「ノート指導」について学ぶ)
12	水溶液の性質(教材について理解を深めるとともに、「アクティブ・ラーニング」と「教師の出番」について学ぶ)
13	振り子の運動(教材について理解を深めるとともに、「エネルギー」を柱とする領域における見方・考え方を学ぶ)
14	生物と環境(教材について理解を深めるとともに、ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方について学ぶ)
15	磁石の性質(磁石が使われている身近な物について探求する)

科目名	理科指導法	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	平良 伸哉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 小学校理科の学習指導要領の目標や内容を理解し、学習指導案を作成するための基本的な考え方や能力を身に付ける。到達目標: 小学校理科の学習指導案を書くことができ、作成した指導案に基づいて授業を行うことができる。</p>					
授業概要					
「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする4つの領域から、各グループ毎に3つの単元を選び、学習指導案の作成と模擬授業を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>学習指導案の作成や模擬授業など、グループでの活動が多くなるので、毎回出席するように心掛けること。また、特定の人物に作業が集中しないよう、役割分担をしっかりと決めておくこと。なお、模擬授業は全員最低1回は行うこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学習指導案・模擬授業に対する相互評価の結果			30		
毎時間実施する振り返りシート			70		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領解説(理科編)				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
<p>{小学校学習指導要領理科編, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_005_1.pdf}</p>					

特記事項	
教員実務経験	
小学校教員の実務経験をもつ教員が、授業実践の経験を活かし、学生が行う模擬授業に対してアドバイスを 行い、主体的・対話的で深い学びになるような理科の授業の在り方について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 小学校理科の目標や内容を概観し、以後の学習の進め方について理解する。 なお、以後の学習活動のため、4～5人のグループを6班編成する。
2	指導案作成・模擬授業の単元を、3～6年生の単元から各グループ毎に3つ選定し、今後の作業 のタイムスケジュールや役割分担、連絡方法などについて打ち合わせを行う。なお、3つの単元 は、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする4つの領域から、重複しないように選定するこ と。
3	学習指導案づくりⅠー1 「エネルギー」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作 成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案 作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的 に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
4	学習指導案づくりⅠー2 「エネルギー」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作 成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案 作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的 に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
5	模擬授業Ⅰー1 「エネルギー」を柱とする単元について①～③班が10分間の模擬授業を行い、 学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授 業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
6	模擬授業Ⅰー2 「エネルギー」を柱とする単元について④～⑥班が10分間の模擬授業を行い、 学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授 業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
7	学習指導案づくりⅡー1 「粒子」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、 10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成 にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見 る」などの考え方についても十分配慮すること。
8	学習指導案づくりⅡー2 「粒子」を柱とする単元について各グループ毎に学習指導案を作成し、 10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。なお、指導案作成 にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一する」「多面的に見 る」などの考え方についても十分配慮すること。
9	模擬授業Ⅱー1 「粒子」を柱とする単元について①～③班が10分間の模擬授業を行い、学習指 導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業につ いては決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
10	模擬授業Ⅱー2 「粒子」を柱とする単元について④～⑥班が10分間の模擬授業を行い、学習指 導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業につ いては決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
11	学習指導案づくりⅢー1 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について各グループ毎に学習指 導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。な お、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一す る」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。
12	学習指導案づくりⅢー2 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について各グループ毎に学習指 導案を作成し、10分間の模擬授業場面については、発問や板書などの指導細案も作成する。な お、指導案作成にあたっては、各学年で重視されている「比較する」「関係づける」「条件を統一す る」「多面的に見る」などの考え方についても十分配慮すること。

13	模擬授業Ⅲ－1 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について①～③班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
14	模擬授業Ⅲ－2 「生命」もしくは「地球」を柱とする単元について④～⑥班が10分間の模擬授業を行い、学習指導案や模擬授業について学生間で討議した後、教員から指導助言を受ける。なお、模擬授業については決められた観点と評価基準で学生間の相互評価を行う。
15	まとめ 理科の授業の問題解決の過程、例えば「問題をもつ場」「問題解決の実行の場」「対話の組織」などの各場面において、発問や板書、評価と支援など、特に留意すべき点を整理する。

科目名	保育内容(健康)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	三原 あけみ				
クラス名					
授業目的と到達目標					
幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づき、子どもの健康な心と体を育て、「子ども自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。運動あそびや食育、生活リズム、睡眠、基本的な生活習慣など、子どもの健康課題をふまえ、具体的な保育場面の中で、どのように子ども自身が健康で安全な生活を営む力を形成していくのか、指導方法を学習し、身に付ける。					
授業概要					
対面授業子どもたちの現在の生活における健康課題を学生たちの問題意識から焦点化し、子どものより健康で安全な生活を目指すために、「子どもの育ってほしい姿」を明確化する。具体的な保育場面、指導場面、実践事例を提示しながら、子どもの心身の発達と道すじ、育みたい資質・能力を理解する。模擬保育を通して、保育者としての視点を身に付ける。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
保育内容「健康」は、自分自身の健康と深くかかわっています。自分の生活を振り返るところからスタートをし、現代の子どもを取り巻く状況について、新聞やテレビ、web などででの情報に関心を持ちましょう。子どもたちが心身ともに健やかに育つために、どのように指導していくか具体的に学びましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業への取り組み			20		
ワークと模擬授業			30		
試験			50		
教科書情報					
教科書1	保育内容「健康」				
出版社名	建帛社	著者名	川邊貴子・吉田伊津美 編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)				
出版社名		著者名	内閣府・文部科学省・厚生労働省		
参考書名3	保育所保育指針 厚生労働省				
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
長年の幼稚園現場での経験を活かし、保育内容(健康)について具体的な指導を行う	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	保育内容「健康」領域のねらいと内容・本授業のガイダンス・幼稚園教育要領等が示す「健康」について、学生たちの問題意識に問いかけながら、ねらいと内容を理解する。
2	基本的生活習慣の形成を支える援助
3	健康管理と安全能力をはぐくむ援助
4	健康な心と体を育む指導の構想と実際①
5	健康な心と体を育む保育の構想と実際②
6	多様な動きの経験を促す指導・幼児期の運動指針について
7	領域「健康」における心身の発達の特徴をふまえた環境構成と援助・気になる子ども、障がいのある子ども、家庭、性格等、特性に応じた援助の在り方
8	健康な心と体を育む保育の構想と実際①・運動遊びを中心とした保育場面を想定して
9	健康な心と体を育む保育の構想と実際②・運動遊びを中心とした保育場面を想定して
10	健康な心と体を育む保育の構想と実際③・運動遊びを中心とした保育場面を想定して
11	健康な心と体を育む保育の構想と実際④・運動遊びを中心とした保育場面を想定して
12	健康な心と体を育む保育の構想と実際⑤・評価と改善
13	健康な心と体を育む保育の構想と実際⑥・評価と改善
14	幼児期に育まれる健康な心と体と小学校生活や学習でいかされる力・幼児期の終わりまでに育てほしい姿と小学校の学習とのつながり
15	領域「健康」のまとめ・試験を実施

科目名	教育実習 I (指導・初等)	年次	3	単位数	1
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教職課程における最重要課題の1つに「教育実習」があります。現場の学校で実際に体験することは何事にも代えることのできない貴重な体験です。実習前の心構えや必要な事項について学ぶと共に終了後の振り替えりも含め、教員への意識化を図っていきます。					
授業概要					
「子どもふれあい体験」等の経験をベースに実習時の心構えや対応について、きめ細やかに指導を行います。実習時に必要なノウハウを身につけていきます。また、疑問点や不安等についても丁寧に指導していきます。※実習事前指導を14回 事後指導を1回計画しています。事後指導については、11月中に同一曜日、時間に予定しています。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
3年次は、演習Ⅱ担当の先生に。4年次は、ゼミ担当の先生が実習校を訪問し、直接指導を行なってもらいます。提出義務や提出期間を厳守し大阪芸大生として恥ずかしくない態度で臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業への参加意欲			50		
レポート課題			50		
教科書情報					
教科書1	小学校 教育実習ガイド				
出版社名	萌文書林	著者名	石橋裕子・梅沢実・林幸範		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

学校長・教育委員会勤務の教員が小学校実務経験を活かし実務的な内容を経験を元に指導を行いません。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 教育実習の法的位置づけとその役割
2	事前オリエンテーションで必要なこと
3	小学生の発達と成長
4	教育委員会と学校
5	学校の日
6	学級における「配慮の必要な子ども」について
7	子どもや先生との関り
8	学級経営について
9	小学校において「配慮」しておきたいこと
10	「授業」「板書」の工夫の仕方
11	教育実習簿の記載の仕方
12	実習時における「挨拶」について
13	お礼状の書き方と実習関係書類の書き方
14	○教育実習に向けての最終的なまとめ。
15	○実習終了後の事後指導② 10月頃に別日実施。

科目名	教育実習 I (指導・初等)	年次	3	単位数	1
授業期間	2024 年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【幼・3年教育実習】				
授業目的と到達目標					
教育実習とは何か、幼稚園教諭の仕事とは何か、実習記録の作成、保育指導案の作成、実践に役立つ保育技術など、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学びます。教育実習 I (事前事後指導)は到達目標として、幼稚園現場に出る心構えを醸成します。					
授業概要					
教育実習の事前事後指導を行います。事前指導では、実習に臨むにあたり必要な基本的な心構えや態度、子どもとの関わり方や実習日誌の作成の仕方、保育指導案の作成の仕方、保育の実際(「手遊び」「仲よし遊び」、絵本の選び方や読み聞かせなど)について学びます。事後指導では、実習の反省を踏まえ今後の課題を明らかにしていきます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
積極的に実習に取り組むためには、どのような準備が必要なのかをよく考えて具体的に準備をし、実習に臨みましょう。教育実習を経験し、各受講生同士で実習の様子を交流し合う中から、各自の課題を見つけ、次年度の教育実習につなげていきましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実習授業の取り組み			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2	あそびうた大全集200				
出版社名	永岡書店	著者名	細田 淳子		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
実務経験: 幼稚園園長・主任・教諭の実務経験を活かし、実習に必要な心構え、記録作成、指導案作成、保育実技力、園児との関わり方などを具体的に指導し、習得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	教育実習の意義と目的について
3	実習に必要な実技について(健康)・各時期における子どもの姿と保育指導について
4	実習に必要な実技について(人間関係)・各時期における子どもの姿と保育指導について
5	実習に必要な実技について(環境)・各時期における子どもの姿と保育指導について
6	実習に必要な実技について(言葉)・各時期における子どもの姿と保育指導について
7	実習に必要な実技について(表現)・各時期における子どもの姿と保育指導について
8	実習日誌の記載について
9	保育指導案の作成について①
10	保育指導案の作成について②
11	教育実習
12	教育実習
13	教育実習を終えて(実習園への礼状の作成など)
14	教育実習を終えて(各自の成果や課題の整理)
15	教育実習体験発表会 ・成果や課題について協議・発表

科目名	教育実習Ⅲ(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	実習		
教員名	三原 あけみ				
クラス名	【幼・事前事後指導】				
授業目的と到達目標					
幼稚園教諭を目指すための後半の教育実習です。専門性を身につけるため、前半での教育実習で学んだことから、さらに課題意識を持ち、取り組むようにします。幼稚園現場で、幼児理解や様々な活動を体得したことを省察し、幼児教育の専門性の獲得につなげます。					
授業概要					
幼稚園教育課程と指導計画について学習を進め、それぞれの時期の子どものクラス集団での姿から、幼児の実態に即した保育の展開の仕方や保育指導案の作成をします。また、環境構成についても、考えていきます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
それぞれが課題をもち、積極的に教育実習に取り組みましょう。そのためには、どのような準備が必要なのかを考え、準備をしましょう。それぞれの幼稚園現場の様子を交流し合いましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実習評価			80		
実習課題および事前準備			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
長年の幼稚園現場での経験を活かし、教育実習に必要な具体的な指導を行う					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育実習Ⅱの反省から、課題を再確認しよう
2	教育課程と指導計画について・入園当初の子どもの姿を考えてみよう・子どもが安心感をもつ遊びとは
3	入園当初の子どもの姿から、考えてみよう・どのような遊びを展開していくのか・環境構成とはどのようにすればよいのか
4	保育指導案を作成し、模擬保育をする
5	子どもの姿について(実習に出る月の子どもの姿)・個々の子どもの姿・クラス集団の中での子どもの姿
6	子どもの自己主張(けんかなど)の受けとめ方について
7	9月の保育内容について・運動会前の遊びにどのように取り入れていくか、考えてみよう
8	9月の保育内容について・運動会前の遊びにどのように取り入れていくか、考えてみよう
9	9月の保育内容について・運動会前の遊びにどのように取り入れていくか、考えてみよう
10	保育指導案を作成する・各年齢に沿った運動遊びを考えよう
11	保育指導案を作成する・運動遊びを活かした保育内容を考える
12	保育指導案を作成する
13	保育指導案を作成する
14	実習を終えての振り返り・お礼状を書くことについて
15	実習期間の体験、学んだこと、実際の子どもの姿から、発表をし、意見交換を実施する。

科目名	保育内容(人間関係)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>領域「人間関係」のねらい及び内容、保育者として身につけておくべき保育内容に関する知識と指導法、基礎的な技能を習得できるようにする。</p> <p>1.領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育内容に関する知識と指導法、基礎的な技能を習得する。</p> <p>2.幼児の発達ならびに体験や学びとの関連を考慮して、情報機器の活用や教材の工夫を保育内容の構想に生かしていくことができる。</p>					
授業概要					
<p>幼稚園教育要領等に記された領域「人間関係」のねらいや内容について、幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。事例や視聴覚教材などを使用し、具体的に幼児理解を深めながら環境構成や援助方法を学び、保育を具体的に構想し実践する方法を身に付ける。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>広く幼児教育を取りまく動向や社会状況に関心をもち、教材研究などにも積極的に取り組みましょう。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回の提出課題・小テスト			50		
グループワーク,模擬保育を含めた授業への参加態度			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	出)フレーベル館	著者名	著)文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

幼稚園教諭・園長の経験を活かし、幼稚園での具体例・実践例等を通して、幼児の人間関係について学びを深める	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする領域「人間関係」の全体像をつかむ
2	領域「人間関係」の内容・ねらいについて教材を通して考える
3	道徳性・規範意識の芽生えについて① 家庭生活・園生活・社会生活におけるきまり
4	道徳性・規範意識の芽生えについて② 教材の工夫と援助
5	発達に応じた自立心を育む援助と環境構成とは
6	協同的な活動の展開と援助について
7	小学校教育への接続・幼小の交流を考える・就学までに育てたい人間関係
8	人間関係を育む遊び① いろいろな伝承遊びから
9	人間関係を育む遊び② ルールのある遊びから
10	人との関わりを広げる遊びの展開を考える① 教材研究をする
11	人との関わりを広げる遊びの展開を考える② 保育指導案を作成する
12	人との関わりを広げる遊びの展開を考える③ 模擬保育と振り返り①
13	人との関わりを広げる遊びの展開を考える④ 模擬保育と振り返り②
14	幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容
15	まとめ

科目名	教育課程総論(初等)	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
教育課程の意義や目的、役割を理解し、教育課程の編成方法を学ぶ。また、幼児理解を踏まえ、教育課程を基にした指導計画の作成の基本と作成方法を学ぶ。教育課程の編成から評価を改善に生かす「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。					
授業概要					
幼児が健やかに成長していくためには、教育課程・全体的計画の編成のもと、指導計画を作成し、それらに基づく教育実践が必要であることを、講話を通して理解する。また、幼稚園での実践事例やDVD視聴等を通して、幼児教育への理解を深め、指導計画の作成と評価・改善につなげていく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教育課程の編成・指導計画の作成には、幼稚園教育要領の理解が大切であるので、幼稚園教育要領解説を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、幼児教育の視野を広げるようにしましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験			50		
授業内の課題・レポート・授業への取り組み			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

幼稚園教諭・主任・園長の実務経験を活かし、教育課程の編成や指導計画の作成について具体的に指導し、習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	オリエンテーション「教育課程総論で学ぶこと」授業の目標・内容を知り、受講に関しての目的意識を明確にする
2	幼児期の教育の基本 「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」等について具体的に学ぶ
3	教師の役割 遊びの中で教師が担っている役割、援助、指導について
4	教育課程の意義と役割 教育課程とは何か、編成の意義や目的について学ぶ
5	教育課程の編成について 教育課程を編成するにあたって、実態把握の仕方や留意事項などについて学ぶ
6	指導計画とは 教育課程に基づく、指導計画の作成の基本的な考え方や留意事項について
7	指導計画作成のポイント① 3歳児クラス 園生活や遊びを通した3歳児の発達と学びの過程を考える
8	指導計画作成のポイント② 4歳児クラス 園生活や遊びを通し4歳児の発達と学びの過程を考える
9	指導計画作成のポイント③ 5歳児クラス 園生活や遊びを通し5歳児の発達と学びの過程を考える
10	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とスタートカリキュラム
11	短期の指導計画(日案)作成の実際
12	幼稚園における評価 カリキュラムマネジメントの意義と重要性
13	幼児指導要録、個別の指導計画について
14	社会に開かれた教育課程とは
15	まとめと授業内試験

科目名	人権教育論(初等)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的この授業を通してディプロマポリシーにある国際的視野にたち、実用的合理性をあわせ持った教員をめざせる人材を育成することを目的とする。到達目標</p> <p>1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶと</p>					
授業概要					
<p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等の参加型体験学習法を取り入れる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習:30分 毎時に指定された章の予読。復習:30分 授業資料の復習及びワークシートの作成・提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ワークシート			50%		
試験			50%		
教科書情報					
教科書1	『人権教育への招待 ―ダイバーシティの未来をひらく』 2019年				
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

<p>人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm 人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200310-mxt_jidou02-000100368_01.pdf 人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.go.jp</p>	
特記事項	
フィールドワークや特別講義への参加を奨励。	
教員実務経験	
人権教育者としての視点から、人権教育の意義及び有効な手法について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の概要、自己紹介、序章 人権教育とは何か パート1:人権教育の歴史的背景
2	序章 人権教育とは何か パート2:国内人権教育の4側面
3	序章 人権教育とは何か パート3:国際的な人権教育確立の動向
4	第1章 学校・子ども・人権 「子どもの人権」
5	第1章 学校・子ども・人権 「障害者と人権」
6	第1章 学校・子ども・人権 「在日外国人と多文化共生」
7	第1章 学校・子ども・人権 「部落差別と人権」
8	第1章 学校・子ども・人権 「ジェンダーとセクシュアリティ」
9	第2章 人権を学ぶ基礎概念
10	第3章 同和教育実践の再発見
11	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり
12	第5章 人権学習を作る視点と方法
13	第6章 地域とつながる人権教育
14	第7章 人権教育の現代的課題
15	試験人権教育実践の補足説明

科目名	芸術表現演習Ⅱ(音楽)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024年度 前期	形態	演習		
教員名	豊田 千晶				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
発声や話し方など、良い表現とは何かを考える。音楽を通してこころを感じ取る感性を身につけ、表現のいろいろを学習する。子供のための音楽劇の指導につながる能力を身につける。					
授業概要					
幼稚園の生活発表会の指導やオペラ・ミュージカルの演出経験を活かし発声練習や歌唱練習や振り付け練習を中心に、相手に伝える表現を学ぶ。毎回、コミュニケーションゲーム・1分スピーチを行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
積極的な参加が必要です。動きやすい服装と靴を準備してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
練習による上達			25		
表現の工夫や独創性			25		
授業に取り組む姿勢			50		
教科書情報					
教科書1	必要な楽譜、資料はその都度配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
受講生の人数により教材を変更する場合があります。					
教員実務経験					
実務経験:オペラ演出家。幼稚園での音楽劇指導、小・中・高校でのミュージカル指導。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	授業の概要説明と各自の音楽体験を確認する。1分スピーチの練習を行う。
2	腹式呼吸の意味を知る。呼吸練習・発声練習を行う。コミュニケーションゲームの紹介。ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の鑑賞(部分)とドレミの歌の歌唱
3	発声練習。言葉を話す練習。その1。コミュニケーションゲームの紹介。ドレミの歌の英語歌唱と替え歌の創作。
4	発声練習。言葉を話す練習。その2。コミュニケーションゲームの紹介。ドレミの歌の替え歌発表。リズムに合わせた動作やステップの練習。ミュージカル(部分)鑑賞
5	振り付けの練習とプロンプターの練習。知らない曲の歌詞を覚える練習と歌詞に合わせた振り付けの実習。ミュージカル(部分)鑑賞
6	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。その1歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。ミュージカル(部分)鑑賞
7	童謡を題材に、歌のお兄さん・お姉さんを演じてみる。その2歌唱練習と聞き取りやすい言葉を意識した歌い方の練習。ミュージカル(部分)鑑賞
8	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。例:「おばけなんてないさ」歌唱練習と振り付け練習。
9	ドレミパイプやハンドベルでメロディーを協力して表現する練習。例:「森のくまさん」歌唱練習と振り付け練習。
10	音楽劇の創作「11匹のねこ」から2曲を選び、2グループに分かれて曲の間のセリフを作る。
11	音楽劇の練習音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
12	音楽劇の練習音楽練習、セリフの練習と短い芝居の練習。
13	ミュージカルの鑑賞 トニー賞授賞式のパフォーマンスの紹介
14	コミュニケーションゲームの復習、振り付けやステップ練習の復習 ミュージカルの鑑賞 トニー賞授賞式のパフォーマンスの紹介
15	前期のまとめ日本の伝統舞台作品の鑑賞。落語・歌舞伎・文楽 など

科目名	家庭科指導法	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	横山 和子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>家庭科指導法について以下の目標を達成することができる</p> <p>1.学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>2.子どもの認識や思考、評価を意識した授業設計ができる</p> <p>3.学習指導案の構成を理解し、学習指導案を作成することができる。</p> <p>4.模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p>					
授業概要					
<p>1.対面授業で行う</p> <p>2. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目標や内容区分の変遷や特徴を理解させる。</p> <p>3. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を理解させ、目標達成のための指導方法について考えさせる。</p> <p>4. 学習評価を含めて、教材研究を通して学習指導案を作成し、それを具現化した模擬授業を通して授業評価、授業改善を考えさせる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画に従って、テキストを参考に、予習しておく ○ 受講中は主体的に参加し、グループ活動や討論場面では、積極的に参加する。 ○ 受講後は、ワークシートやテキストを基に大切なことをしっかり習得する。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験・模擬授業			40		
提出物			40		
参加状況			20		
教科書情報					
教科書1	わたしたちの家庭科 5.6				
出版社名	開隆堂	著者名	鳴海多恵子他著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	小学校学習指導要領解説家庭科(2020年4月告示 文部科学省)				
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
小学校教諭 38 年の実務経験がある教員が実践に基づいて講義する			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	第1回:家庭科の目標及び内容 学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A・B・Cに分類された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する。 ・指導要領に従ってまとめる		
2	第2回:A. 家族・家庭生活の指導 内容Aの中の「団らん」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・導入を中心に指導法を考える		
3	第3回:B. 衣食住の生活(食領域)の指導 内容Aの中の「献立作り」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・展開を中心に指導法を考える		
4	第4回:B. 衣食住の生活(衣領域)の指導 内容Bの中の衣領域「洗濯」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・全体を通して指導法を考える ・班で考えた指導法を交流する		
5	第5回:B. 衣食住の生活(住領域)の指導 内容Bの中の住領域「そうじ」に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・全体を通して指導法を考える ・班で考えた指導法を交流する		
6	第6回:C. 消費生活・環境の指導 内容Cの消費生活・環境に関して、消費生活に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。 ・指導目標や指導計画を調べる ・全体を通して指導法を考える ・班で考えた指導法を交流し理解している。		
7	第7回:B. (5)製作活動の指導 内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導方法や留意点を考えることができる。 ・製作活動の基本を知る ・製作を通して指導の留意点を考える		
8	第8回:B. (3)調理の指導 内容Bの調理に関する指導で、ゆでる調理(卵・ジャガイモ等)の実習を通して指導方法や留意点を考えることができる。 ・調理実習の基本を知る ・調理を通して指導の留意点を考える		
9	第9回:教材研究の仕方 授業設計に関して、基本的な課程と留意点がわかり、題材の目標設定や目標に応じた指導計画や評価計画を立てることができる。 ・授業設計の基本を知る ・目標や指導計画を考える		
10	第10回:学習指導案の書き方 児童観・題材観・指導観を理解し、自分の考えを表現することができる。本時の指導に関して、指導案の書き方を踏まえて、わかりやすい本時案を書くことができる。 ・児童観、題材観、指導観書く ・本時の指導案を書く		

11	<p>第11回: 模擬授業の学習指導案作り 模擬授業に向けて、グループで題材を考え、教材研究を通して学習指導案を作り、計画的に準備を進めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループを決め題材を考える ・模擬授業の学習指導案を作る
12	<p>第12回: 模擬授業の準備 模擬授業に向けて、教材研究や学習指導案に基づき、計画的に準備を進めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の準備をする ・本時の細案を書く
13	<p>第13回: 模擬授業(1)B 模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bの内容の模擬授業をする ・討議会を通して授業のポイントについて学ぶ
14	<p>第14回: 模擬授業(2)AC 模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACの内容の模擬授業をする ・討議会を通して授業のポイントについて学ぶ
15	<p>第15回: まとめ・これからの家庭科教育 家庭科の学習指導で大切なことを振り返り、これからの家庭科教育で必要となる指導内容や課題解決学習を主とした指導方法について理解する。まとめの試験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科指導法についてポイントをまとめる ・これからのあり方について考える

科目名	家庭	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	横山 和子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>「家庭」について以下の目標を達成することができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容を理解している。 2.家族・家庭生活における学習内容がわかり重要性を理解している。 3.衣食住に関する学習内容がわかり重要性を理解している。 4.消費生活・環境に関する学習内容がわかり重要性を理解している。 5.他教科との関連や食育、ESDについて理解している。 					
授業概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1.対面授業で行う 2. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目標や内容区分の変遷や特徴を理解させる。 3. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を実践することを通して理解させる。 4. 家庭科に関連して、他教科との連携や食育、持続可能な社会を目指す教育等について理解させる 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画に従って、テキストを参考に、予習しておく ○ 受講中は主体的に参加し、グループ活動や討論場面では、積極的に参加する。 ○ 受講後は、ワークシートやテキストを基に大切なことをしっかり習得する。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
まとめのテスト			40		
参加状況			20		
提出物			40		
教科書情報					
教科書1	わたしたちの家庭科 5.6年				
出版社名	開隆堂	著者名	鳴海多恵子 編		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	小学校学習指導要領解説家庭科(2020年4月告示 文部科学省)				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
小学校教諭 38 年の実務経験がある教員が実践に基づいて講義する			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	第1回:家庭科の目標及び内容 学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A・B・Cに分類された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する ・学習指導要領を元にまとめる		
2	第2回:「家族・家庭生活」について(1)「家族・家庭生活」の内容を理解し、家庭の仕事と生活時間の学習内容を知る ・家庭の仕事の学習内容を調べる ・生活時間の学習内容を調べる		
3	第3回:「家族・家庭生活」について(2) 家族や地域との関わりに関する学習内容を知る。(4)の課題例について考える ・B 領域の食領域を題材レベルで調べる ・家族との関わりについて調べる ・地域との関わりについて調べる		
4	第4回:「食生活」について(1)「食生活」の内容を理解し、栄養に関する学習内容を食育との関連で捉える ・B 領域の衣領域を題材レベルで調べる ・学習指導要領での目標を知り食育との関連を考える ・栄養指導の系統性を知る		
5	第5回:「食生活」について(2) 実習時の配慮事項を知り、調理指導の系統性や料理の基本について理解、教材開発について考える ・調理実習(5. 6年で扱うもの)内容や調理の基本を確認する ・ゆでる、いためる調理で基本と発展の料理を考える		
6	第6回:「食生活」について(3) 和食の基本であるご飯と味噌汁の意義や行事食や郷土料理、旬食材の意義を考える ・日本の食文化の意義を考える ・ご飯と味噌汁とだしや行事食、郷土料理、旬の食材を調べる		
7	第7回:「衣生活」について(1) 内容B「衣生活」の内容を理解し、洗濯や衣服の役割・季節に応じた着方の学習内容を知る ・洗濯に関する内容を知る ・衣服の働きや季節や目的等に応じた着方を考える		
8	第8回:「衣生活」について(2) 内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導内容や留意点に分かる。 ・製作活動の系統性を知る ・製作活動を通して基礎縫いを確かめる		
9	第9回:「衣生活」について(3) ・製作計画を作成する ・計画に基づいて製作を進める		
10	第10回:「住生活」について(1)「住生活」の内容を理解し、整理・整頓、掃除に関する学習内容について知る ・整理・整頓と物の活用や掃除とごみの分別について知る ・家庭での実践と継続に向けてについて考える		
11	第11回:「住生活」について(2) 季節に応じた住まい方に、省エネや環境の視点を加えた学習内容や工夫について知る		

	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割や季節に応じた住まい方の工夫を調べる ・エコライフの実践について考える
12	<p>第12回:「消費生活・環境」について(1) 日本「消費生活・環境」の内容を確認し、ESD の取り組みや SDGs との関連を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な開発(社会)」の歴史的背景について調べる ・ESD と学校での実践や SDGs と学校教育の関係について調べる
13	<p>第13回:「消費生活・環境」について(2) 推進法での消費者教育の目標を理解し、消費者市民の育成をめざす視点を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育推進法と学校での消費者教育を調べる ・消費者市民社会をめざす消費者教育の展開を考える
14	<p>第14回:「消費生活・環境」について(3) 持続可能な社会の構築をめざして5R を基にプラゴミや食品ロスについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と資源(資源を大切に使う、生かす)について調べる ・ESD と環境を家庭科教育に取り入れる方法を考える
15	<p>第15回:まとめ・これからの家庭科教育 家庭科教育で大切なことを振り返りこれからの家庭科教育で必要となる指導内容について理解する。まとめの試験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習内容の不易・流行について知る ・これからの家庭科について考える

科目名	幼児と言葉	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	田中 幸代				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
領域「言葉」のねらいや内容を理解し、乳幼児期の成長発達や現代社会の状況などを踏まえて、幼児の言葉に関する力を育むための保育内容、援助、指導方法などを実践的に理解する。					
授業概要					
幼稚園教育要領等に記された領域「言葉」のねらいや内容について、背景となる専門領域や幼児の姿・保育実践と関連させて理解を深める。また、情報機器等も利用して言葉を育てる環境構成や保育者の援助について学んだり、言葉を育てる教材への理解を深め、保育への活用を図ることができるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
言葉を育む教材である絵本、手遊び、言葉遊びなどに関心を持ち、興味を広げましょう。 また、広く幼児教育をとりまく動向や社会状況に関心を持ち、主体的に授業に取り組みましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業内試験			40		
受講態度・平常のレポートや提出物			30		
教材作成、授業内発表など			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	出)フレーベル館	著者名	著)文部科学省		
参考書名2	実践 保育内容シリーズ 言葉				
出版社名	出)一藝社	著者名	編著)谷田貝公昭 廣澤満之		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
幼稚園教諭・主任・園長の実務経験を活かし、幼稚園での具体例・実践例や保育教材等を通して、幼児の言葉について学びを深め、実践的な力を習得させる					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 授業の目標・内容を知り、受講に関する目的意識を明確にする 領域「言葉」に求められること -言葉をめぐる現代的諸課題と社会的背景-
2	0歳児～2歳児の言葉の発達過程
3	3歳児～5歳児の言葉の発達過程
4	領域「言葉」と小学校教育とのつながり -「読み言葉」と「書き言葉」について-
5	領域「言葉」のねらいと内容について
6	豊かな言葉を育む児童文化 —絵本について—
7	豊かな言葉を育む児童文化 —絵本の読み聞かせの実際—
8	豊かな言葉を育む児童文化 —伝え合い分かり合う楽しい劇遊び—
9	豊かな言葉を育む児童文化 —紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊び—
10	まとめの試験
11	言葉を育む教材研究を行い、教材を作成する①
12	言葉を育む教材研究を行い、教材を作成する②
13	保育教材を使った模擬保育①
14	保育教材を使った模擬保育②
15	保育教材を使った模擬保育③

科目名	幼児と人間関係	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	田中 幸代				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>○幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 ○幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における発達論的視点から理解する。 ・乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 ・幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 ・家庭や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。</p>					
授業概要					
現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」のねらいや内容について、幼児の発達の姿と保育実践を関連させて理解を深める。事例や視聴覚教材などを使用し、具体的に幼児理解を深めながら、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
広く幼児教育を取りまく動向や社会状況に関心をもち、グループでの討議の機会には積極的に発言し、主体的に授業に取り組みましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験			50		
受講態度・平常のレポートや提出物等			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	出)フレーベル館	著者名	著)文部科学省		
参考書名2	保育内容 人間関係				
出版社名	出)光生館	著者名	編著)岩立京子・西坂小百合		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
幼稚園教諭・主任・園長の実務経験を活かし、幼稚園での人との関わりの具体例・実践例等を通して、幼児の人間関係について学び、習得させる	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション・授業の目標・内容を知り、受講に関する目的意識を明確にする ・「自分を知る」ところからはじめよう
2	領域「人間関係」に求められること ・人間関係をめぐる現代的課題と社会的背景 ・領域「人間関係」が目指すもの
3	領域「人間関係」のねらいと内容について
4	0歳児～3歳未満児の育ちと人との関わり ・人との信頼関係を基盤とし、安定感・安心感を得られるような関わりとは
5	3歳児の育ちと人との関わり ・自立心の芽生えを育み、自己充実して遊べるようになる基礎を築く
6	4歳児の育ちと人との関わり ・4歳児の人と関わる力の発達の特徴 ・仲間との出会いと関わりについて
7	5歳児の育ちと人との関わり① ・友達と生活や遊びをつくる
8	5歳児の育ちと人との関わり② ・遊びの中で育つ協同性
9	幼児の自己主張について① ・けんかやいざこざ、トラブルを通して成長する子ども
10	幼児の自己主張について② ・けんかやいざこざ、トラブルを通して成長する子ども
11	気になる子どもへの支援① ・保育実践より 気になる子どもとは
12	気になる子どもへの支援② ・人との関わり方が難しい幼児への支援を考える
13	子育ての支援① ・保護者の理解と支援 保育者の役割
14	子育ての支援② ・保護者に子ども理解・幼児教育を理解してもらうために
15	まとめと授業内試験

科目名	音楽科指導法Ⅱ(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	津田 奈保子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーに基づき、小学校音楽科の意義と目標を理解し、教授内容をさらに深める。</p> <p>(1) 音楽科指導の歴史を理解し、現在の問題点と音楽教育の全体構造を理解する。</p> <p>(2) 表現領域の歌唱については、特に共通教材についての理解を深め指導法を考察できる。</p> <p>(3) 器楽と音楽づくり・鑑賞についてのねらいを学び、指導法を考察できる。</p> <p>(4) 学習評価について学び、授業計画の立てることができる。</p> <p>(5) 学習指導案の書き方を学び、単元の中での深め方や、次の活動への繋げ方などを理解する。</p>					
授業概要					
<p>「対面授業」小学校教育の基本として、「生きる力」や、三つの視点などを理解したうえで、音楽科教育の意義と目標を理解する。表現領域である、歌唱・器楽・音楽づくり、鑑賞領域と共通事項を理解し、教授するための基本的音楽知識についてさらに深めるとともに、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みについても理解する。鑑賞教材や、歌唱共通教材についても理解を深め、感じ取ったことを言語化する方法についても考察し、指導法をさらに深める。授業を行う際の、教材研究についても深め、授業計画を作成し、模擬授業を行いながらさらなる実践力</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・グループワークや相互批評は毎時間実施するため遅刻、欠席はしないこと。・模擬授業を行うので、準備を怠らず、他学生の模擬授業も積極的に参加すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
模擬授業			40		
指導案作成			40		
授業における参加姿勢、授業内提出課題			20		
教科書情報					
教科書1	教員養成課程 新版 小学校音楽科指導法 (ISBN:9784877888237)				
出版社名	教育芸術社	著者名	有本真紀		
教科書2	文部科学省「小学校学習指導要領解説」音楽編				
出版社名	教育芸術社	著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
小学校教諭で音楽専科をした経験を持つ教員が、授業経験をいかし、教授法を授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	講義の概要について理解する。 「音と音楽」について学ぶ。
2	「主体的・対話的で深い学び」について学び、音楽教育の実情とねらい、各学年のねらいについて学ぶ。 「遊びと音楽」について考える。
3	歌唱指導の意義と留意点歌唱教材の研究(「共通事項」の取り扱い方含む) 「歌唱教育の成立について」学ぶ。
4	器楽指導の意義と留意点楽器奏法と指導法の工夫(「共通事項」の取り扱い方含む) 「文部省唱歌の出現」について学ぶ。
5	鑑賞指導の意義と留意点日本伝統音楽を基本とした授業づくり(「共通事項」の取り扱い方含む) 「大正期童謡運動の歴史的意義」について考える。
6	「戦後学校音楽論の視座と視点」について学ぶ。
7	創作活動の意義と留意点「音楽づくり」の授業研究(「共通事項」の取り扱い方含む) 「音楽の教育的価値」について考える。
8	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 「音楽教育の本質と意義」について考える。
9	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 「あわせることの意義」について考える。 模擬授業と相互活動、領域「表現」唱歌を深める。
10	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 「記譜法と唱法」について学ぶ。 模擬授業と相互活動、領域「表現」器楽を深める。
11	日本の音楽、箏について学ぶ。
12	日本の音楽、箏を体験する。
13	模擬授業と相互活動、領域「表現」音楽づくりを深める。
14	模擬授業と相互活動、領域「鑑賞」を深める
15	まとめ

科目名	音楽科指導法 I (初等)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024 年度 後期	形態	講義		
教員名	津田 奈保子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーに基づき、小学校音楽科の意義と目標を理解し、教授内容をさらに深める。</p> <p>(1) 音楽科指導の歴史を理解し、現在の問題点と音楽教育の全体構造を理解する。</p> <p>(2) 表現領域の歌唱については、特に共通教材についての理解を深め指導法を考察できる。</p> <p>(3) 器楽と音楽づくり・鑑賞についてのねらいを学び、指導法を考察できる。</p> <p>(4) 学習評価について学び、授業計画の立てることができる。</p> <p>(5) 学習指導案の書き方を学び、単元の中での深め方や、次の活動への繋げ方などを理解する。</p>					
授業概要					
<p>「対面授業」小学校教育の基本として、「生きる力」や、三つの視点などを理解したうえで、音楽科教育の意義と目標を理解する。表現領域である、歌唱・器楽・音楽づくり、鑑賞領域と共通事項を理解し、教授するための基本的音楽知識についてさらに深めるとともに、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みについても理解する。鑑賞教材や、歌唱共通教材についても理解を深め、感じ取ったことを言語化する方法についても考察し、指導法をさらに深める。授業を行う際の、教材研究についても深め、授業計画を作成し、模擬授業を行いながらさらなる実践力</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・グループワークや相互批評は毎時間実施するため遅刻、欠席はしないこと。</p> <p>・模擬授業を行うので、準備を怠らず、他学生の模擬授業も積極的に参加すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
模擬授業			40		
指導案作成			40		
授業における参加姿勢、授業内提出課題			20		
教科書情報					
教科書1	教員養成課程 新版 小学校音楽科指導法 (ISBN:9784877888237)				
出版社名	教育芸術社	著者名	有本真紀		
教科書2	文部科学省 「小学校学習指導要領解説」 「音楽編」				
出版社名	教育芸術社	著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
小学校教諭で音楽専科を経験した教員が、現場での授業経験を活かし、教授法を授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	講義の概要について理解する。 「音と音楽」について学ぶ。
2	「主体的・対話的で深い学び」について学び、音楽教育の実情とねらい、各学年のねらいについて学ぶ。 「遊びと音楽」について考える。
3	歌唱指導の意義と留意点歌唱教材の研究(「共通事項」の取り扱い方含む) 「歌唱教育の成立について」学ぶ。
4	器楽指導の意義と留意点楽器奏法と指導法の工夫(「共通事項」の取り扱い方含む) 「文部省唱歌の出現」について学ぶ。
5	鑑賞指導の意義と留意点日本伝統音楽を基本とした授業づくり(「共通事項」の取り扱い方含む) 「大正期童謡運動の歴史的意義」について考える。
6	「戦後学校音楽論の視座と視点」について学ぶ。
7	創作活動の意義と留意点「音楽づくり」の授業研究(「共通事項」の取り扱い方含む) 「音楽の教育的価値」について考える。
8	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 「音楽教育の本質と意義」について考える。
9	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析 「あわせることの意義」について考える。模擬授業と相互活動、領域「表現」唱歌を深める。
10	模擬授業実践のための教材研究・楽曲の分析「記譜法と唱法」について学ぶ。 模擬授業と相互活動、領域「表現」器楽を深める。
11	日本の音楽、箏について学ぶ。
12	日本の音楽、箏を体験する。
13	模擬授業と相互活動、領域「表現」音楽づくりを深める。
14	模擬授業と相互活動、領域「鑑賞」を深める
15	まとめ

科目名	音楽Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	奥野 桃子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
子どもたちが好きな「ごっこ遊び」の中に音楽の要素を取り入れ、遊びながら心と体で音楽を感じる「音楽遊び」を自ら体験し、また創造したりする。 教育現場で活用するための、楽典の知識を確実なものにする。					
授業概要					
対面授業 教育現場の実践に役立つ技術の習得を目指し、自ら動き体験し、教育現場で活用できる作品をみんなで考え制作する。 また、歌唱指導におけるいろいろなアプローチ法を学ぶ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業内容は毎回記録に残す。 楽典の小テストを実施します。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業内の小テスト			50		
意欲的な参加			50		
教科書情報					
教科書1	音楽を学ぶということ これから音楽を教える・学ぶ人のために				
出版社名	教育芸術社	著者名	監修者 今川恭子		
教科書2	音楽通論				
出版社名	教育芸術社	著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
幼稚園・小学校・中学校における実務経験をもとに音楽指導を行う。 リトミック指導の経験を活かした指導を行う。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	オリエンテーション
2	音楽の要素を用いた「音楽遊び」楽典・いろいろな歌唱指導法 など
3	音楽の要素を用いた「音楽遊び」楽典・いろいろな歌唱指導法 など
4	音楽の要素を用いた「音楽遊び」楽典・いろいろな歌唱指導法 など
5	音楽の要素を用いた「音楽遊び」楽典・いろいろな歌唱指導法 など
6	音楽の要素を用いた「音楽遊び」楽典・いろいろな歌唱指導法 など
7	音楽の要素を用いた「音楽遊び」楽典・いろいろな歌唱指導法 など
8	「音楽遊び」の創作楽典・いろいろな歌唱指導法 など
9	「音楽遊び」の創作楽典・いろいろな歌唱指導法 など
10	課題発表楽典・いろいろな歌唱指導法 など
11	課題発表楽典・いろいろな歌唱指導法 など
12	課題発表楽典・いろいろな歌唱指導法 など
13	課題発表楽典・いろいろな歌唱指導法 など
14	課題発表楽典・いろいろな歌唱指導法 など
15	全体の振り返り

科目名	教育とICT活用の理論と方法	年次	3	単位数	1
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	北浦 米造				
クラス名	初等 2024年度前期				
授業目的と到達目標					
<p>これからの学校教育では、個別最適で協働的な学びの実現とともに情報活用能力の育成、また校務の情報化に向けて、教員はICTを活用し指導する能力が求められている。そこで本授業では、建学の精神である実用的合理性の重視に基づき、小学校教員として必要となるICT活用能力を獲得するため、次の到達目標を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの意義や事例等をもとに、様々な授業場面において効果的なICT活用が設計できる。 ・1人1台の双方向通信機能等を生かした端末操作やデジタル教材の作成、基本的な校務処理ができる。 ・体系的な情報モラルの視点をもって、児童の情報活用能力を育む指導ができる。 					
授業概要					
<p>GIGAスクール構想の理念に基づき、1人1台端末の環境で、双方向の通信機能を活用して授業を進める。主な授業の流れは、ICTの意義や教科等の具体的な活用事例をもとに、演習を通しての操作スキルを身につける。そして、それらが他の授業でも応用できるよう、ICT活用の授業場面を設計したり、デジタル教材を作成したりして相互発表で学びを深める。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>ICT活用は教員にとって、授業や校務全般にわたり必要不可欠な職務能力となることから、積極的かつ継続的に学びを進めてスキルや応用力を身につけること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業や課題の取り組み			50		
発表や成果物			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	必要資料は、授業毎に配布します。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考URL					

特記事項	
教員実務経験	
北浦米造: 学校でコンピュータ導入の黎明期から現在の端末整備に至るまで ICT の活用研究や情報教育の推進、教員研修を担ってきた。その教員・管理職経験を活かし、ICT 活用の今日のニーズを踏まえて、学校現場のリアルな状況を想定しながら、より実践的で汎用性が高い演習を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業ガイダンス: ICT 活用の意義
2	GIGA スクール構想における端末の機能
3	デジタル化した問題や資料等の配布と回収処理
4	シンキングツールを用いた授業の展開
5	教科指導(国語・算数)における ICT 活用
6	教科指導(社会・理科)における ICT 活用
7	教科指導(音楽・体育)における ICT 活用
8	教科指導(図工・家庭)における ICT 活用
9	教科指導(道徳・教科横断)における ICT 活用
10	電子教科書、オンライン教育の意義と活用
11	プログラミング学習(低・中学年対象)
12	プログラミング学習(高学年対象)
13	情報モラル教育と情報セキュリティ
14	校務の情報化における運用
15	ICT を活用した授業等の振り返り

科目名	生徒指導と進路指導論(初等)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	平良 伸哉				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 児童が、社会の中で自分らしく生きることができる大人へと育つよう、教員としてどのような働きかけを行えば良いのか理解することを目的とする。</p> <p>到達目標: 学級担任として、日々の生徒指導やキャリア教育を推進するための基礎的な資質・能力を養うことを目標とする。</p>					
授業概要					
生徒指導、キャリア教育に係る諸課題について、講義、討論を通して理解を深める。小学校教諭、管理職、行政職の経験をもとに、知識だけでなく実践的な内容となるよう心掛けたい。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
教育に関する諸問題について日頃から関心を持って情報を収集し、自分なりの考えをもったり、疑問に思ったりすることを整理しておくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎時間実施する振り返り			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	生徒指導提要				
出版社名	教育図書	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
{生徒指導提要, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm }					
特記事項					
教員実務経験					

小学校教諭、小学校管理職、教育相談室長、教育委員会事務局職員の実務経験をもつ教員が、それぞれの役職で経験したことを踏まえ、生徒指導やキャリア教育の考え方や指導法について習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	イントロダクション ブラック校則と呼ばれるものについてディスカッションし、校則は何のためにあるのかを再考する。
2	不登校 不登校問題の現状を知り、不登校児童・生徒への対応の仕方について考える。
3	いじめ・けんか・ふざけ いじめ問題の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
4	問題行動・非行等 問題行動の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
5	薬物乱用 薬物乱用の現状について知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
6	虐待・家庭内暴力 虐待や家庭内暴力の現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
7	外国にルーツを持つ子どもたち 日本にいる外国ルーツの子どもたちの現状を知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
8	教育相談 教育相談の意義と学校教育相談の特質について学ぶ。
9	携帯電話の取り扱いとネット問題 携帯電話や SNS 上のトラブルの現状について知り、学級担任としての対応の仕方について考える。
10	性的マイノリティについて 性的マイノリティの現状と学校で配慮すべき事柄を文部科学省の通知等をもとに学ぶ。
11	障がい・発達障がいと合理的配慮 すべての子どもたちが快適な学校生活を送ることができるようにするために、学校でできることを考える。
12	「カウンセリング」と「カウンセリングマインド」 学校教育相談を行うにあたって知っておくべき「カウンセリング」の基礎知識や技能について学ぶ。
13	守秘義務と説明責任・懲戒と体罰 生徒指導に関する法律について、守秘義務と説明責任、懲戒と体罰を中心に学ぶ
14	キャリア教育(1) モチベーショングラフや自分史シートを作成することにより、自己理解を深める。
15	キャリア教育(2) ライフキャリアプランを作成したり、自分の職業的興味を探ったりすることにより、自分の将来について考える。

科目名	算数	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	荒川 透				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>小学校算数科のテーマは「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の5点である。本講義では、これらのテーマに加えて算数・数学の基盤となる「集合と論理」について学習する。本授業を通して、「算数科」を指導するあたり、より効果的な授業が構築できるようになってもらいたい。さらに、各テーマを通じて、数学的思考法も併せて身に付けてもらいたいと考えている。</p>					
授業概要					
<p>講義内容は必ずしも小学校課程の範囲にとどまらないが、それらは小学校で授業を構築する上で、教師として当然知っておかなければならないものである。講義ではできるだけ例題や演習を挙げることにより、理解を確実なものにしていきたいと考えている。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>随時演習問題等を提供するので、授業内容の理解を確実なものにしてほしい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題および授業時の演習等			100		
教科書情報					
教科書1	資料プリント等を配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	小学校・算数科で何を学ぶか:小学校学習指導要領・算数科の概要
2	数とは何か, 数概念について理解する:数の種類と働き
3	数の表現方法(記数法)について理解する:古代の記数法と位取り記数法
4	四則演算の意味について考える
5	小学生がおかす四則演算の間違いについて考える
6	分数の四則演算について
7	図形の種類と分類:2次元, 3次元図形, 作図と作図のための道具
8	量と測定:数と量の関係, 示量性と示強性
9	図形と計量:距離と角度, 計量と計量のための道具
10	図形と計量:面積と体積, 表面積
11	集合とは何か, またその演算について理解する
12	数学的思考法について考える:論理とその演算
13	比とは何か
14	比例と反比例について理解する
15	数量関係の関数概念への拡張:写像と関数

科目名	図画工作科指導法 I	年次	2	単位数	2
授業期間	2024 年度 後期	形態	講義		
教員名	車谷 哲明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
幼児・児童の造形活動を指導するにあたり、保育及び授業の設定の仕方や基礎的な学習理論を理解させ、学習指導案の作成をもとに具体的な授業場面を想定した授業設定の方法等を身につけさせる。					
授業概要					
造形活動における指導計画の作成や授業設計の方法を実践的に学び、模擬授業を通して発問や授業展開の方法を考えていく。全員が作成した指導案を元に「授業」することを必須とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
学習指導要領・図画工作解説編をよく読み、絵やものを作る中ではぐくまれる力について自分なりに考察を進めること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
指導案・レポート・模擬授業			40		
テスト			60		
教科書情報					
教科書1	新学習指導要領にもとづく こどものアート				
出版社名	昭和堂	著者名	編著 車谷哲明・井関和代		
教科書2	小学校教育課程実践講座 図画工作				
出版社名	ぎょうせい出版	著者名	奥村高明		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領 図画工作編				
出版社名	文部科学省	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
指導案作成と模擬授業を授業の核とします。現場に出て、自分の思う指導が出来るよう授業プランの作成を行いますのでアイデアを生かすこと。					
教員実務経験					

校長、美術教育団体の長や教育委員会指導主事(図工・美術)の教員が経験を活かし豊富な実践例を通して指導力の向上に努める。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス「子どもと造形活動」① 新学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を知る。
2	「子どもと造形活動」② 新学習指導要領に示された内容の全体構造を把握し、学年別の傾向を知る。(作品鑑賞を通して)
3	「子どもと造形活動」③ 造形活動の意欲化と評価についての方法を学ぶ。(形成的評価とポートフォリオ)
4	「子どもと造形活動」④ 保育所・幼稚園での造形活動と小学校低学年との関連から教科として育成すべき能力を明確にする。
5	「子どもと造形活動」⑤ 図画工作科と他教科との関連について(教科横断的な取り組みや生活科、総合的な学習の時間との関連)
6	「授業づくりのポイント」① 図画工作科の学習指導案の作成について(子どもの実態に合わせた題材の設定から計画作成まで)
7	「授業づくりのポイント」② 図画工作科の学習指導案の作成について(導入の工夫と板書計画子どもを引き付ける題材名の検討や発問の工夫について)
8	「授業づくりのポイント」③ 図画工作科の学習指導案の作成について(授業展開の工夫と鑑賞活動・振り返り活動の大切さ)
9	図画工作科における情報機器の活用 図画工作科の学習指導案の作成について(授業内において効果的な機器の活用方法について実践例をもとに考える)
10	模擬授業の準備 使用用具・素材の準備、場所の設定、配布物の用意等
11	模擬授業の展開① 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
12	模擬授業の展開② 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
13	模擬授業の展開③ 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
14	模擬授業の展開④ 各人が作成した指導案をもとに授業の導入から展開初発までを実施する。
15	授業づくりのポイント授業計画から実践・評価の中で大切にすべきことについて。評価テスト。

科目名	保育内容(表現)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	畑中 久子				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
領域「表現」に視点を当て、保育現場で必要とされる様々な表現活動を体験し、考察することによって、実践的指導を身につける。					
授業概要					
就学前教育では、幼児が集団生活を送る中でのびのびと自分の思いを表現する力が大切である。そのためには幼児期の発達の特性を理解し、幼児期に相応しい教育内容と方法を知ることが必要である。身体表現、音楽表現、造形表現などの表現活動について知識を深めるとともに教育者としての豊かな感性をもち、幼児に寄り添った援助が出来るようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
実際に歌ったり、踊ったり、描いたり、作ったりなど体を動かします。活動しやすい服装と靴で受講すること。「表現」なので、授業内でしっかりと自分を表現しましょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度と発表・提出物			40%		
試験			60%		
教科書情報					
教科書1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
元幼稚園教諭・園長経験を活かして、実際に現場で行われている表現活動を展開していきます。					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	保育の基本と「表現」について ・環境を通して行う教育 ・表現と感性
2	領域「表現」のねらいと内容について① ・感じたことや考えたことを表現する ・保育者の役割
3	領域「表現」のねらいと内容について② ・表現できる環境づくり
4	表現を育む基本姿勢 ・子どもの表現をどう受け止めるのか
5	表現を育む基本姿勢 ・身体による表現について
6	表現を育む基本姿勢 ・音楽による表現について
7	表現を育む基本姿勢 ・造形による表現について
8	表現活動の援助・指導について ・身体による表現
9	表現活動の援助・指導について ・音楽による表現
10	表現活動の援助・指導について ・造形による表現
11	保育現場での実践内容① ・事例から「表現」を考える
12	保育現場での実践内容② ・事例から「表現」を考える
13	教材研究と表現を引き出す環境構成
14	保育者の専門性 ・保育者自身の表現力と感性
15	まとめと試験

科目名	教育社会学(初等)	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	今西 康裕				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>社会学のものの見方や考え方、その諸特徴の理解をはかった上で、これを用いて教育やその主たる対象である子どもたちに関連する諸問題を分析し、教育に対する視点をより多面的・多角的なものとするを旨とする。そして、受講生個々人が今後自らの家庭生活や職業生活において、教育という事象やこれに関する諸問題に向き合う際、そうした複眼的な視点から教育や当該の問題の本質に迫ることができるよう、また問題の解決がはかれるよう努めたい。</p>					
授業概要					
<p>他の学問とく同じ教育を研究対象とする教育学との比較を交えて、教育社会学の視点の独自性や学問的性格を明らかにし、その研究領域として三つのもの、すなわち、社会(的行為)としての教育、社会から(学校教育をはじめとした)教育への影響、逆に、教育が社会へ及ぼす影響、があることを踏まえながら、いじめや不登校といった子どもたちの教育に関連する諸問題を、この教育社会学の枠組みを用いて考察し、新たな知見の獲得をはかりたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>ただ受動的に講義を聴くのではなく、これまでの自らの学校教育での経験やそこで感じたこと等を参照とし、また、将来教育者として子どもたちと関わることを想定して、より主体的に思考をめぐらせ意見表明を行う等、積極的に授業参加してほしい。また、教育や社会に関する事柄に日頃から問題関心をもち、書物等を通して、それらについての情報収集や状況把握を心掛ける態度や姿勢を身につけてほしい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
小テスト点			70(5点×14回)		
提出物の提出状況やその内容の充実度			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業中に適宜紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	研究対象としての教育
2	社会学の視点
3	社会としての教育
4	社会が教育に与えるもの
5	教育が社会に与えるもの
6	社会化と教育
7	家族の社会化機能
8	仲間集団の意義と機能
9	学校教育の機能
10	地域社会と教育
11	「教育格差」にまつわる諸問題
12	現代社会と教育①(ジェンダーや情報化をめぐる諸状況と教育)
13	現代社会と教育②(高齢化・国際化をめぐる諸状況と教育)
14	学校安全への対応等、今日の教育現場に関する諸問題
15	これまでの授業内容のふりかえりとまとめ

科目名	保育内容指導法総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	三原 あけみ				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
幼稚園教育要領には「ねらい」「内容」が5領域で示されている。しかし、「子どもの遊び」は総合的に展開されるので、領域の枠を超えて見ていかなければならないことを学習する。					
授業概要					
幼稚園での保育内容事例の紹介をしながら、「子どもの遊び」を体験するなかで、幼稚園教育は総合的な指導であることを理解する。身体を通して感じ取る感覚を養うと共に、子どもの遊びについて、指導案の作成をし、援助の在り方、環境構成などの基本的な理解を深める一助とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
保育内容指導法総論は幼稚園全般を知るよい機会です。担当者は、幼稚園現場の事情に通じています。積極的に質問をして、自分のものにしてください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験により評価			70		
授業への取り組み			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	幼稚園教育要領解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
長年の幼稚園現場での経験を活かし、保育内容について具体的な指導を行う					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	幼児教育における遊びを通した指導・園生活全体を通して総合的に指導するということを理解する
2	子どもの遊びを分析して、どのような経験をしているのかを考察する・遊びの実際の場面から
3	幼児教育における環境を通した実践・幼稚園生活全体を通して遊びの中でどのような経験をしているのかを考察する
4	行事と保育・行事の意味について・保育内容について考えよう
5	行事と保育・「お月見の会」保育指導案を書いてみよう
6	秋の自然と子ども・ドングリの遊びを考えよう・遊びのねらいと子どもの学び
7	豊かな生活(保育)の展開①・ドングリを使って保育計画を立てよう
8	豊かな生活(保育)の展開②・教材作成
9	豊かな生活(保育)の展開③・模擬保育と振り返り
10	保育ドキュメンテーションを作ろう・写真を選ぶ・何を伝えたいか
11	支援を要する子ども理解とクラス経営
12	幼児の造形活動について・子どもの絵の味方、発達・作品展の実際と意味・子どもの造形活動を通して育つもの
13	冬の遊びについて・凧を作ってあげよう
14	お正月・節分について・伝統的な行事の意味・遊びの実際
15	まとめ試験の実施

科目名	幼児と造形表現Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	佐藤 有紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 幼児の未分化で素朴な表現や特徴、造形美、心理を理解及び造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を基盤として、望ましい幼児造形表現指導の計画を作成するとともに、幼児の造形表現を引き出すための構想・実践力を見につける。</p> <p>到達目標: 幼児造形表現指導の計画作り及び幼児造形表現指導の構想・実践力の獲得</p>					
授業概要					
対面授業造形教育の意義と理念を確認したうえで、実際の幼児造形表現指導についての指導と環境のつくり方を考察し、幼児造形表現指導の計画作りや構成力・実践力を身に付ける。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
事前学習として、指定の教材・道具の準備をすること。事後学習として、授業のレポートをまとめておくこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成し、今後の学びに生かすこと。授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次回までの完成させること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
振り返りノート			30%		
表現・鑑賞活動			50%		
レポート			20%		
教科書情報					
教科書1	なし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	『子供の世界 子供の造形』				
出版社名	三元社	著者名	松岡宏明		
参考書名2	「幼稚園教育要領」(平成29年告示)				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名3	「保育所保育指針」(平成29年告示)				
出版社名	フレーベル館	著者名	厚生労働省		
参考書名4	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年告示)				
出版社名	フレーベル館	著者名	内閣府		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

幼稚園・保育園での造形指導の経験を活かし、幼児教育における造形活動の意義や実践方法についての講義を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	オリエンテーション 幼児造形教育の意義、幼児造形教育と感覚教育、人間の発達と造形活動、遊びと造形
2	5領域の中の「表現」、領域「表現」の中の「造形」
3	園における造形活動の範囲、造形遊びと造形表現、小学校「図画工作」との接続
4	「造形あそび」の指導展開(空間遊び・材料遊び・操作遊び・構成遊び・模倣遊び)
5	「造形表現」の指導展開(心象表現(観察、経験、お話・空想による)、適用表現(用途、機能を考えた)
6	幼児造形表現指導における鑑賞活動の展開の視点
7	幼児造形の材料及び用具の整理
8	造形表現指導における情報機器及び教材の応用的活用
9	幼児の造形の発達に応じた指導のあり方(造形能力の基礎形成期～前図式期)
10	幼児の造形の発達に応じた指導のあり方(図式期～前写実期)
11	幼児の造形の特徴を受容する指導のあり方
12	幼児の造形の美的・造形的側面を考慮した指導のあり方
13	幼児の造形の心理的側面を考慮した指導のあり方
14	幼児造形表現指導の計画と実践(カリキュラム・マネジメント、年間計画表、指導案の作成)
15	まとめ・幼児造形表現指導の課題と展望

科目名	幼児と音楽表現 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2024 年度 後期	形態	講義		
教員名	津田 奈保子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーに基づき、芸術を通して幼児の援助法を考える。幼児期において育みたい資質・能力について、又表現領域のねらい及び内容について理解する。主体的で対話的・深い学びが実現する過程を踏まえて具体的保育を考察し、幼児が手段とする様々な表現方法を学ぶ。教材研究をするとともに、幼児について深い理解をするために、赤ちゃんから幼児までの音・音楽との関わりについて学び指導法を身に付ける。併せて保育の評価について学び、省察の仕方を理解し指導計画の立て方を学ぶ。I においては特に身体表現と声による表現について学ぶ。</p>					
授業概要					
<p>保育の中で使うあそび歌や、わらべうた、音楽に合わせた身体運動などについて学び、音楽遊びのレパートリーを増やすと共に、幼児の音楽遊びは他領域との関連も重要であることから、遊びを丁寧な観察し、それまでに修得した専門的知識も活用しながら実践力・考察力を身につける。幼児の音楽は上手に歌わせることが目的ではないことを十分に理解しつつ、幼児の声域に対応しやすく、表現しやすいわらべうたなどを取り上げ、カノンなど幼児でも可能な和声の響きを体験できる技術も身につける。他の幼児との比較や到達目標として 10 の姿を捉えることなく</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			60%		
授業内で提示する課題			40%		
教科書情報					
教科書1	乳幼児の音楽表現				
出版社名	中央法規	著者名	赤ちゃん学会		
教科書2	こどものうた 200				
出版社名	チャイルド	著者名	小林美実		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
保育所保育士、認定こども園保育教諭であった教員が、現場での音楽活動の経験を活かして、幼児の音楽表現の教授法を授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の概要。領域「表現」のねらい及び内容について ・表現が生まれる環境について学ぶ
2	年齢による表現の変化、声の発達について ・乳幼児を取り巻く、表現を導く豊かな環境について学ぶ
3	わらべうたについて ・乳幼児とわらべうたの関係性、生活に根差す音や動きについて
4	わらべうたによる大人の関わりとその指導法 ・基本的信頼感を得るための幼児なりの表現受容について
5	友達との関係構築するわらべうたの意義 ・乳幼児一人一人が表現する楽しさを味わう援助について
6	幼児の歌う意味・意義について考察する ・幼児理解を大切に、幼児の目線に立つことを学ぶ
7	表現する楽しさを味わわせ、表現する意欲を引き出す保育実践を考察する。 ・幼児の内面の動きを捉え、教材研究をする
8	幼児の思いやイメージを生かした音楽活動について ・幼児なりの表現が生かされる環境とその評価について
9	他領域との関係から季節の歌を歌うことの意味を知る ・友達の表現を認め合う保育について
10	手遊びの持つ意義について理解し実践する ・生活の中のイメージや体験を、手遊びを通して具現化するための援助について
11	幼児の特徴でもある身体運動について ・音と体の動きを体験しリズム実践法について学ぶ。 ・音源を用い音楽に反応する身体的発達を考慮した保育について
12	ボディパーカッションを体験し、一番身近な楽器としての体と音楽の関わりについて学ぶ ・音の不思議と、心揺さぶられる経験について考察する
13	情報機器などの教材を用いた指導法について ・指導案をもとに保育実践を行う ・幼児理解に基づいた評価について
14	情報機器や視聴覚教材を活用し実践する ・心揺さぶられる音楽経験について ・幼児理解に基づく省察について
15	まとめ 乳幼児の声・歌との関わりについて ・これから向かうべき幼児音楽教育について

科目名	幼児と造形表現 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2024 年度 前期	形態	講義		
教員名	佐藤 有紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 幼児造形表現指導の基盤となる幼児の造形に関する理解とその実践力につながる基礎的能力の涵養</p> <p>到達目標: 幼児の未分化で素朴な表現の姿やその発達、特徴、造形美、心理を理解するとともに、造形表現の媒体に関する基礎的な知識・技能を身につけ、幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する基礎的能力を培う。</p>					
授業概要					
対面授業幼児の未分化で素朴な表現を理解するとともに、様々な表現媒体に関する基礎的な知識・技能及び幼児の表現を引き出すための考え方と保育に展開する構想・実践力の基礎を身につける。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
事前学習として、指定の教材・道具の準備をすること。事後学習として、授業のレポートをまとめておくこと。また、指定回以降にはレポートの構想を練り、作成し、今後の学びに生かすこと。授業内に作品が仕上がらなかった場合は、次回までの完成させること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
振り返りノート			30%		
表現・鑑賞活動			50%		
レポート			20%		
教科書情報					
教科書1	なし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	『子供の世界 子供の造形』				
出版社名	三元社	著者名	松岡宏明		
参考書名2	「幼稚園教育要領」(平成 29 年告示)				
出版社名	フレーベル館	著者名	文部科学省		
参考書名3	「保育所保育指針」(平成 29 年告示)				
出版社名	フレーベル館	著者名	厚生労働省		
参考書名4	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成 29 年告示)				
出版社名	フレーベル館	著者名	内閣府		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
幼稚園・保育園での造形指導の経験を活かし、幼児教育における造形活動の意義や実践方法についての講義を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 領域「表現」の位置づけと幼児の未分化で素朴な表現の受容
2	造形あそび・造形表現のための材料・素材「紙」生活の中の素材
3	造形あそび・造形表現のための材料・素材「紙」教材
4	造形あそび・造形表現のための材料・素材「自然素材」木
5	造形あそび・造形表現のための材料・素材「自然素材」石・砂・植物など
6	造形あそび・造形表現のための道具・技法「クレヨン」、造形子どもの世界観
7	造形あそび・造形表現のための道具・技法「水彩えのぐ」、造形子どもの世界観
8	造形あそび・造形表現のための道具・技法「墨」、造形子どもの世界観
9	造形遊び・造形表現のための道具・技法「ローラー」子どもの世界観
10	造形遊び・造形表現のための道具・技法「版画」凸版
11	造形遊び・造形表現のための道具・技法「版画」凹版
12	造形表現指導における情報機器及び教材の活用
13	子どもの造形への美的な側面からのアプローチ・子どもと芸術家の作品の比較鑑賞
14	子どもの造形への心理的な側面からのアプローチ(形、色、構図)
15	造形表現指導の評価の基本的考え方、自分なりの幼児造形表現指導の構築

科目名	保育内容(言葉)	年次	2	単位数	1
授業期間	2024年度 前期	形態	演習		
教員名	大土 恵子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ことばは子どもの発達を示す指標である。ことばの発達を概観し、関連する認知や社会性の発達について理解する。事例を通して言語やコミュニケーションの発達を評価する方法、発達を促すための異本的姿勢や関わり方の実際を学ぶ。遊びや絵本・紙芝居などの文化財を使ってことばの発達を支援する方法を考案し、教材を作成して発表を通してねらいや方法を言語化できるようになる。					
授業概要					
年齢に沿ってことばの発達の現象を丁寧に見ながら、ことばを話す前から子どもの行動が示す発達の意味を概説する。発達年齢に応じたさまざまな事例を通して適切な大人のかかわりやことばかけはどのようなものかを検討する。さらに、発達年齢に適切なことばを育む遊びやことばの発達を促す教材を考案し、ねらいや方法を明確にしたうえで、グループで発表する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
視聴覚教材を用いた講義を参考に、各自で毎回配布される資料を完成させる。配布資料はファイルに整理し、毎回持参すること。グループ発表用の配布プリントは授業前に印刷し、発表時に配布する。毎回授業の最後にキーセンテンスを作成し、提出する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
テストおよび定期試験			40		
発表・提出物			50		
授業への取り組み			10		
教科書情報					
教科書1	保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	馬見塚昭久・小倉直子		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	保育所保育指針解説				
出版社名	フレーベル館	著者名	厚生労働省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
幼稚園や特別支援学校の教諭であった教員が、実例を交えながら言語発達支援について指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	人間と言葉、言葉と文化、言葉とは何か
2	乳幼児期の言葉の獲得 ①なぜ話せるようになるのか ②言葉の仕組みを見つける
3	言葉の豊かさ ①日本語の特徴 ②言葉を感じる
4	言葉遊び ①子どもと言葉遊び ②言葉遊びの実際
5	児童文化財 1:お話し ①児童文化財とは ②おはなし
6	児童文化財 2:紙芝居 ①紙芝居とは ②紙芝居の実際
7	児童文化財 3:絵本とは何か ①絵本の基礎知識 ②絵本の特性と絵本の構成要素
8	児童文化財 4:絵本と子ども ①絵本の読み聞かせ ②絵本に描かれた子どもグループ発表
9	領域「言葉」とは ①領域の考え方と言葉の育ち ②領域「言葉」と保育の方法
10	子どもの発達と言葉 ①乳児の発達と言葉の獲得 ②幼児の発達と言葉の役割
11	前言語期のコミュニケーションと保育 ①言語獲得前のコミュニケーション ②コミュニケーションを育むための働きかけ
12	話し言葉の機能と発達 ①「話す」ということ ②園生活で話す力を育てる
13	書き言葉の発達と保育 ①文字の読み書きと保育 ②文字の読み書きを支援する方法
14	言葉に関する諸問題 ①言葉に関する課題 ②母語が日本語ではない子ども ③子どもとデジタルメディアグループ発表
15	言葉を育む保育の構想指導計画と保幼小連携授業内定期試験

科目名	国語 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2024 年度 後期	形態	講義		
教員名	石橋 卓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
1 建学の精神の実用的合理性の重視に基づき、国語科教育の基礎・基本となる内容を理解する。 2 建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、書写指導(硬筆)の基礎・基本を習得する。					
授業概要					
対面授業1 『小学校国語科教育法』阿部藤子・益地憲一(建帛社)を使って、国語科教育の基礎・基本について説明する。 2 小学校国語科書写用教科書『新しいしよしゃー』平形精逸(東京書籍)を使って、書写指導(硬筆)の基礎・基本について説明する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・書写(硬筆)の実技を行います。かきかたえんぴつ(2B)を用意すること。 ・試験問題は2冊の教科書から出題します。必ず購入してください。 ・小学校書写の教科書は本年度改訂されます。必ず新たに購入すること。 ・授業ノートと書写プリントの提出及び受講態度で、平常点を評価します。 ・授業の妨げになるので、授業中の私語は厳禁します。 ・20分以上の遅刻は認めません。 ・毎回の出席を求めます。やむなく欠席の場合は、Q&A で連絡すること。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(ノート・書写及び受講態度)			20		
期末(筆記)試験			80		
教科書情報					
教科書1	小学校国語科教育法				
出版社名	建帛社	著者名	阿部藤子・益地憲一		
教科書2	あたらしいしよしゃー(小学校国語科書写用 文部科学省検定済教科書)				
出版社名	東京書籍	著者名	平形精逸		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教科書は2冊とも授業と試験(教科書持ち込み可)で使用します。必ず購入すること。	
教員実務経験	
元小学校教諭、現大阪市総合教育センタースクールアドバイザーの教員が、小学校国語科授業研究の経験を活かして、小学校国語科授業の基礎となる理論や実践について授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション ・準備学修(予習・復習)・受講上の注意・授業の内容について ・平常点及びレポートについて・期末試験について ・掲示登録及び授業資料について ・国語科教育のトピック・読書について ・作文について
2	『教育法』第1章 国語科教育の意義と目指すもの 『新しいしよしゃー』(以下『しよしゃー』と略す。)はじめに ひらがなのかきかた
3	『教育法』第2章 授業と教師 『しよしゃー』「かく じゅんじょ」「まがり」
4	『教育法』第3章 授業づくりの要件 『しよしゃー』「おれ」
5	『教育法』第4章 発達の段階に応じた指導 『しよしゃー』「むすび」
6	『教育法』第5章 教材研究 『しよしゃー』もじのかたち、にているけれど ちがうひらがな
7	『教育法』第6章 授業デザイン 『しよしゃー』ひらがなのひょう
8	『教育法』第7章 話すこと・聞くことの学習指導 『しよしゃー』よこがき① につきをかこう
9	『教育法』第8章 書くことの学習指導 『しよしゃー』「とめ」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」
10	『教育法』第9章 読むこと(文学)の学習指導 『しよしゃー』かたかなのひょう
11	『教育法』第10章 読むこと(説明的文章)の学習指導 『しよしゃー』よこがき② なまえをかこう
12	『教育法』第11章 読書指導 『しよしゃー』「とめ」「はね」「はらい」
13	『教育法』第12章 国語科における[知識及び技能]の内容 『しよしゃー』「おれ」「まがり」「そり」
14	『教育法』第13章 授業研究とリフレクション 『しよしゃー』ひつじゅんのきまり
15	『教育法』第14章 評価、第15章 これからの国語科教育に求められるもの 『しよしゃー』かくのながさとほうこう * 試験問題に解答する練習をして、説明を聞く。 * 授業アンケートに回答する

科目名	国語Ⅱ(書写を含む)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	石橋 卓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>1 建学の精神の実用的合理性の重視に基づき、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語の内容を理解する。</p> <p>2 建学の精神の実用的合理性の重視に基づき、小学校国語科教科書(二年上、五年)を読み、教材の読み方を学ぶ。</p> <p>3 建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、書写指導(硬筆)の基礎・基本を取得する。</p>					
授業概要					
<p>対面授業1『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』を使って、小学校学習指導要領国語の内容を説明する。</p> <p>2 小学校国語科用教科書『新しい国語二上』『新しい国語五』(東京書籍)を使って、教材の読みかたを説明する。</p> <p>3 小学校国語科書写用教科書『新しいしよしゃ二』(東京書籍)を使って、書写指導(硬筆)の基礎・基本について説明する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・書写(硬筆)の実技を行います。かきかたえんぴつ(2B)を用意すること。 ・試験問題は4冊の教科書から出題します。必ず購入してください。 ・小学校国語科と書写の教科書は本年度改訂されます。必ず新たに購入すること。 ・授業ノートと書写プリントの提出及び受講態度で、平常点を評価します。 ・授業の妨げになるので、授業中の私語は厳禁します。 ・20分以上の遅刻は認めません。 ・毎回の出席を求めます。やむなく欠席の場合は、Q&Aで知らせること。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(ノート・書写及び受講態度)			20		
期末(筆記)試験			80		
教科書情報					
教科書1	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編				
出版社名	東京書籍	著者名	文部科学省		
教科書2	新しい国語二上、新しい国語五(小学校国語科用 文部科学省検定済教科書)合計2冊				
出版社名	東京書籍	著者名	秋田喜代美		
教科書3	新しいしよしゃ二(小学校国語科書写用 文部科学省検定済教科書)				
出版社名	東京書籍	著者名	平形精逸		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教科書は4冊とも授業と試験(教科書持ち込み可)で使用します。必ず購入すること。			
教員実務経験			
元小学校教諭、現大阪市総合教育センタースクールアドバイザーの教員が、小学校国語科授業研究の経験を活かして、小学校国語科授業の基礎となる理論と実践について授業する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション ・準備学修(予習・復習)・受講上の注意 ・授業の内容について ・平常点について・期末試験について ・掲示登録及び授業資料について『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』(以下『解説』と略す。)付録「別表 学年別漢字配当表」、「教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表」		
2	『解説』第1章 総説 『新しい国語』風のゆうびん屋さん(お話) 『新しいしよしゃ二』(以下『しよしゃ二』と略す。)導入、しせい・もち方、「止め」「はね」「はらい」と「おれ」「まがり」		
3	『解説』第2章 国語科の目標と内容 第1節 国語科の目標、第2節 国語科の内容 1内容の構成、2[知識及び技能]の内容 『新しい国語五』おにぎり石の伝説(物語) 『しよしゃ二』にている文字のちがうところ		
4	『解説』第2章 第2節 3[思考力、判断力、表現力等]の内容 『新しい国語二上』たんぼぼ(説明文) 『しよしゃ二』点画の名前		
5	『解説』第3章 各学年の内容 第1節 第1学年及び第2学年の内容 1[知識及び技能] 『新しい国語五』インターネットは冒険だ(説明文) 『しよしゃ二』れんらくちょうを書こう		
6	『解説』第3章 第1節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『新しい国語二上』名前を見てちょうだい(お話) 『しよしゃ二』ひつじゅんのきまり		
7	『解説』第3章 第1節 2 C 読むこと 『新しい国語五』世界でいちばんやかましい音(物語) 『しよしゃ二』画の長さ		
8	『解説』第3章 第2節 第3学年及び第4学年の内容 1[知識及び技能] 『新しい国語二上』どうぶつ園のかんばんとガイドブック(説明文) 『しよしゃ二』画のほうこうと、画と画の間		
9	『解説』第3章 第2節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『新しい国語五』新聞記事を読み比べよう(説明文) 『しよしゃ二』「はらい」のほうこう		
10	『解説』第3章 第2節 2 C 読むこと 『新しい国語二上』ニャーゴ(お話) 『しよしゃ二』「おれ」のほうこう		
11	『解説』第3章 第3節 第5学年及び第6学年の内容 1[知識及び技能]		

	『新しい国語五』注目の多い料理店(物語) 『しよしゃ二』画のつき方と交わり方
12	『解説』第3章 第3節 2[思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと、B 書くこと 『新しい国語五』和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる(説明文) 『しよしゃ二』知っているかな いろは歌
13	『解説』第3章 第3節 2 C 読むこと 『新しい国語五』大造じいさんとがん(物語) 『しよしゃ二』文字の外形
14	『解説』第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画作成上の配慮事項 『新しい国語五』「弱いロボット」だからできること(説明文) 『しよしゃ二』文字の中心
15	『解説』第4章 2 内容の取扱いについての配慮事項、3 教材についての配慮事項 『新しい国語五』手塚治虫(伝記) 『しよしゃ二』二年生のまとめ * 試験問題に解答する練習をして、説明を聞く。 * 授業アンケートに回答する

科目名	国語科指導法(書写を含む)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	石橋 卓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
1 建学の精神の実用的合理性の重視に基づき、国語学力を形成する国語科授業のありかたや進め方を理解する。					
2 建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、書写指導(硬筆・毛筆)の基礎・基本を習得する。					
授業概要					
対面授業					
1 『国語科授業の教科書(改訂版)』野口芳宏(さくら社)を使って、国語科授業のありかた・進め方を説明する。					
2 小学校国語科用教科書『新しい国語 二上』『新しい国語 五』(東京書籍)を読み、学習指導案を作成し、学生が指導者となって模擬授業を行う。					
3 小学校国語科書写用教科書『新しい書写 三』(東京書籍)を使って、書写指導(硬筆・毛筆)の基礎・基本について説明する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・教科書4冊は必ず購入すること。試験問題は教科書から出題します。					
・小学校国語科と書写用の教科書は本年度改訂されるので、必ず新たに購入すること。					
・書写実技を行います。書道用品とかきかたえんぴつ(2B)を用意すること。					
・第12回～第14回の授業で模擬授業を行います。受講生全員で先生役と児童役を担当します。					
・授業ノートと学習指導案の提出及び模擬授業と受講態度で平常点を評価します。					
・授業の妨げになるので、授業中の私語は厳禁します。					
・20分以上の遅刻は認めません。					
・毎回の出席を求めます。やむなく欠席の					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(ノートと学習指導案提出及び模擬授業と受講態度)			20		
期末(筆記)試験			80		
教科書情報					
教科書1	国語科授業の教科書(改訂版)				
出版社名	さくら社	著者名	野口芳宏		
教科書2	新しい国語二上、新しい国語五(小学校国語科用 文部科学省検定済教科書)計2冊				
出版社名	東京書籍	著者名	秋田喜代美		
教科書3	新しい書写 三(小学校国語科書写用 文部科学省検定済教科書)				
出版社名	東京書籍	著者名	平形精逸		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教科書は、授業と期末試験(教科書持ち込み可)で使用します。4冊とも必ず購入しておくこと。	
教員実務経験	
元小学校教諭、現大阪市総合教育センタースクールアドバイザーの教員が、小学校国語科授業研究、若手教員指導の経験を活かして、小学校国語科授業の具体的な指導方法を授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	・オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方、準備物、掲示登録等の確認、準備学修(予習・復習)・受講上の注意等の説明を聞く。) ・国語科教育に関わる新聞記事や参考図書の紹介 ・小学校国語科教材「ごんぎつね」を読んで、教材研究を行う。 ・ノートに学習のまとめを書く。
2	『国語科授業の教科書(改訂版)』序 授業の存在意義、第一章 国語学力を形成する ― 学力形成が曖昧な国語科授業、二 国語学力とは、三 国語学力形成の原理 『新しい国語 二上』たんぼぼ(説明文) 『新しい書写 三』毛筆を使って学習しよう
3	『国語科授業の教科書(改訂版)』第二章 授業の基本・授業者の心得 ― 全員参加を促す授業、二 子どもを集中させる技術、三 分かりやすい話し方、四 素材研究・教材研究 『新しい国語 五』インターネットは冒険だ(説明文) 『新しい書写 三』「横画」
4	『国語科授業の教科書(改訂版)』第二章 五 範読、第三章 授業の基礎技法 ― 発問、二 板書 『新しい国語 二上』名前を見てちょうだい(お話) 『新しい書写 三』「たて画」と「点」
5	『国語科授業の教科書(改訂版)』第三章 三 ノート指導、四 机間巡視 『新しい国語 五』注文の多い料理店(物語) 『新しい書写 三』「おれ」
6	『国語科授業の教科書(改訂版)』第三章 五 指名、六 評価 『新しい国語 二上』どうぶつ園のかんばんとガイドブック(説明文) 『新しい書写 三』「左はらい」と「右はらい」
7	『国語科授業の教科書(改訂版)』第四章 教材別指導の基本 ― 文学作品(物語文)の鑑賞(前半) 『新しい国語 五』和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる(説明文) 『新しい書写 三』「曲がり」と「反り」
8	『国語科授業の教科書(改訂版)』第四章 教材別指導の基本 ― 文学作品(物語文)の鑑賞(後半) 『新しい国語 二上』ニャーゴ(お話) 『新しい書写 三』ひらがな
9	『国語科授業の教科書(改訂版)』第四章 教材別指導の基本 二 説明文の読解 『新しい国語 五』大造じいさんとがん(物語) 『新しい書写 三』筆順の決まり、点画の長さ
10	今まで読んできた教科書から模擬授業する教材を選び、学習指導案を作成する。
11	学習指導案と指導細案(しどうさいあん)を完成させ、次回からの模擬授業の説明を聞く。
12	模擬授業を行う(1/3) * 先生役の学生は問いかけて、児童役の学生が答える問答を実際に行う。

13	模擬授業を行う。(2/3) * 先生役の学生は問いかけて、児童役の学生が答える問答を実際に行う。
14	模擬授業を行う。(3/3) * 先生役の学生は問いかけて、児童役の学生が答える問答を実際に行う。
15	* 模擬授業を行う(予備) * 先生役の学生は問いかけて、児童役の学生が答える問答を実際に行う。 『新しい国語 二上』しを読もう 『新しい国語 五』心の動きを短歌で表そう 『新しい書写 三』書いて味わおう * 期末試験の練習問題を解答して、説明を聞く。 * 授業アンケートに回答する。

科目名	特別支援教育理論(初等)	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	田中 裕美子				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>通常級に在籍する発達障害をはじめとするさまざまな障害の背景や特性、乳幼児期から学童・青年期にわたる障害様相を発達の視点から理解し、特別支援教育に関する基礎的な知識(理念、制度、対象等)を得る。障害種ごとの特性を知り、学校生活で経験する困難を具体的に理解する。障害により、または診断はされていないが、特別支援を必要とするあるいは気になる子どもの教育的ニーズに気づけるようになる。それぞれの教育的ニーズに対する教師の役割や適切な合理的配慮・支援、保護者や関係機関との連携などを考えることができる。</p>					
授業概要					
<p>発達障害を中心に様々な障害の特性や、集団内および個別の支援教育の制度や基本理念について概説する。診断されていないが教育的 ニーズのある子どもを含め、通常級の事例などを通して各児の特性、発達、長所・短所を捉え、実際にはどのような困り感を抱えているかについて述べる。また、学習上または生活上の困難に応じた 合理的配慮や対応・支援の方法をどのようにしたものがあるかなどについても解説する</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>毎回、授業内容に関する資料を配布する。視聴覚教材を用いた講義を参考に各自で配布された資料を完成させ、ファイルに整理し、授業に持参する。授業の最後にリアクションペーパー(キーセンテンス:最も重要だと思ったことを文にする。質問がある場合は記述する)を仕上げ提出する。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
テストおよび定期試験			60		
提出物			30		
授業への取り組み			10		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	はじめての特別支援教育-教職を目指す大学生のために改訂版				
出版社名	有斐閣アルマ	著者名	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一 納富恵子 (編)		
参考書名2	インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門				
出版社名	萌文書林	著者名	大塚 玲編著		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
米国日本語補習校で教員、教務主任を務めた。また、国際医療福祉大学言語聴覚学科で准教授として言語聴覚士の養成や子どもの発達相談の臨床に携わった。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	障害がある・発達に課題がある子どもとは
2	特別支援教育とは: 特別支援教育の制度や基本理念、教員に求められる役割や技能
3	自閉スペクトラム症(ASD)の理解と支援 1: 基本的特性
4	自閉スペクトラム症(ASD)の理解と支援 2: 発達に伴って認められる特性やアスペルガー症候群
5	注意欠如・多動症(ADHD)の理解と支援 1: 3つの特性
6	注意欠如・多動症(ADHD)の理解と指導・支援2: 特性の理解に基づく支援法とは
7	さまざまな問題行動や特性の理解に基づく支援とは
8	中間総括: 特別支援教育や発達障害の基本知識の復習
9	子どものアセスメント: 支援につながる子どもの評価法や求められる大人の資質とは
10	子どもの言語の問題とは: コミュニケーション言語と学習言語
11	(限局性)学習症(SLD)の理解と指導・支援: 音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題
12	知的障害・知的発達症の理解と指導・支援: 情報処理理論からみた評価と支援法
13	身体障害・聴覚障害・視覚障害の理解と指導・支援
14	事例を通して子どもへの支援法や保護者との連携を考える
15	全体総括・授業内定期試験